



2017.4

**JAHIS**

会誌

[60号]

一般社団法人  
保健医療福祉情報システム工業会

## 目次

巻頭言	副会長	小松 研一	2
新任のご挨拶	事業企画推進室 副室長	黒野 満夫	4
部会長の ご挨拶・抱負	運営会議 議長	下邨 雅一	5
	総務会 会長	浅野 正治	6
	標準化推進部会 部会長	大沢 博之	7
	医事コンピュータ部会 部会長	小宮 宏之	8
	医療システム部会 部会長	藤岡 宏一郎	9
	保健福祉システム部会 部会長	富田 茂	10
	事業推進部 部長	青木 順	11
海外視察の報告	海外視察報告 ～ HIMSS AsiaPac16 ～	森本 正幸	13
	オランダにおける医療保険制度・医療 ICT 化視察調査報告	医事コンピュータ部会	23
トピックス	第 22 回 JAHIS 講演会 & 賀詞交換会開催される		31
	平成 28 年度第 25 回医事コンピュータ部会業務報告会・特別講演		33
	平成 28 年度医療システム部会業務報告会開催される		35
	平成 28 年度 保健福祉システム部会業務報告会開催		37
	平成 28 年度標準化推進部会業務報告会開催される		39
	HL7 セミナー開催		41
	日本薬剤師会学術大会	田代 哲也 亀田 裕文 宮島 毅	42
部会から	運営部より	武田 芳郎	44
	会員管理システムのリニューアル	総務会 ホームページ改修検討WG	47
	特定健診・特定保健指導の第三期見直しの検討状況について	鹿妻 洋之	51
	教育事業のご紹介	三田村 一治	56
運営状況報告	理事会／運営会議／総務会／委員派遣ならびに協賛・後援		60
全員メール			71
会員紹介	帝人ファーマ株式会社／株式会社イムコア／ トレンドマイクロ株式会社／株式会社インターネットイニシアティブ／ 株式会社トゥモロー・ネット／株式会社沖データ／ 株式会社エフワン		73
事務局新人紹介	新任のご挨拶	吉野 裕夫	77
編集後記			79

## ご挨拶



副会長  
東芝メディカルシステムズ(株)  
相談役

**小松 研一**

Komatsu Kenichi

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）会員の皆様、当工業会の活動にご理解、ご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

我が国は、世界に例を見ないスピードで高齢化社会に突入しようとしています。50年前と比較してみましょう。

内閣府の「高齢化白書」によれば、1967年、日本の人口が初めて1億人を超え増加していました。高齢化率6.5%(高齢者は15人に一人)。国民医療費3兆円でした。

画像診断機器が登場し、さらにはデジタル化の波が押し寄せ、医療そのものが安全・安心で高度な医療へと変革が始まる頃であります。

半世紀を経た2015年では、人口は減少に転じ1億2700万人。高齢化率は26%(高齢者は4人に一人)。国民医療費は41兆円に大きく増加しておりますが、医療のレベルは、世界でも公平で安全な高いレベルと評価されております(WHO)。

今後、生産人口が減少し高齢化が進展していく中において、予防から診断、治療、予後自立支援の一連の医療サイクルにおいて、さらに一層の高度化が求められてゆくと同時に、有効性・効率化との両立を進めて、社会保障給付費の適正化を図っていくことが大きな課題となります。

課題解決の一つの鍵は、医療ICTを徹底的に利活用すること、医療を世界市場と捉え拡大してゆくこと、ではないかと思えます。

国の施策としても、第4次産業革命と位置付けられるIoT、ビッグデータ、AI、ロボット技術などを医療分野に活用する民間の研究開発促進に期待した制度設計、並びに医療情報をDB化し、高度医療展開をするための「次世代医療基盤法」が今国会で議論されているようであります。

昨年からはじめた、政府の成長戦略の司令塔である「未来投資会議」においては、「医療・介護の未来投資と課題」のテーマで、医療情報のデジタル化・標準化、ネットワーク化、ビッ

グデータ化とその利活用について議論されました。ICT、AIを活用した「医療・介護ICT」を2020年に本格稼働するという工程表も示されました。

次の半世紀に向けた「ICT・AIを活用した医療・介護のパラダイムシフト」は既に始まっています。このパラダイムシフトは保健医療福祉情報システムを扱ってきた当工業会が要となって推進すべき最重要課題であると考えます。

今後、医療の有効性・効率化を考えると、未病の状態から高度な診断で早期発見、低侵襲治療、さらには患者個人々人にとっての合理的な治療、予後のフォローアップ自立支援という一連のプロセスで、ICT技術は確かに期待されていますが、具体的に何が貢献できるのかを、医療の現場まで踏み込んだ検討が望まれていると思います。

サイバー空間に展開された個人々人の形態情報、機能情報、代謝情報、ゲノム情報などを分析し、最も安全で将来に渡りリスクの少ない医療を情報空間上で探索し、実態医療を効率的に展開するということが進むでありましょう。

また、このように我が国で醸成された、高度で安全・安心な医療を国際的に貢献してゆかねばなりません。世界の医療市場は700兆円を超えと言われております。医療ICTが国境を越えて進展してゆくことを願っております。

JAHISの会員各位におかれましてはさらなる発展のチャンスであり、また、責任も大きいと思います。

会員各位のさらなる発展の基盤整備として、保健医療福祉情報システムに関する標準化、技術の向上、品質及び安全性の確保を図ることを当工業会はめざし、努力を積み重ねてまいります。

今後とも当工業会の活動にご支援・ご協力いただけますようよろしくお願いいたします。

## 新任のご挨拶

事業企画推進室副室長  
(日本電気株)

**黒野 満夫** Kurono Mitsuo



2016年11月1日から事業企画推進室副室長を務めさせて頂いています黒野です。日頃、大変お世話になっております。

私がJAHISの活動に参加させて頂き始めたのは、2012年末から始まった医療用ソフトウェア対応WGからで、単体ソフトウェアが医療機器としての規制対象になるということで、その規制方法等についての状況を共有することが目的に開始された会議に出席したところからです。

単体ソフトウェアを医療機器として規制対象とした「医薬品医療機器等法」は、2014年11月25日施行されました。医療用ソフトウェア対応WGが、その後、ヘルスソフトウェア対応委員会となり、2015年1月に「医療機器の該当性判断のための読合わせ会」を実施し、2015年5月には、「国際モダンホスピタルショー2015展示に関する留意事項説明会」を実施しました。そのヘルスソフト対応委員会の委員長を、橋詰さんから引き継いで務めさせて頂きました。

2016年10月までは、NECに所属していましたので、そこでの経歴を少し話させて頂きます。入社した直後は、NTTの汎用コンピュータのOS開発部隊に配属され、アセンブラ言語でのプログラム開発を行っていました。その後、OS開発が終了となったため、NTT系システムの対応をしている事業部に異動し、システムエンジニアとして、システム構築を行っていました。そこから、ある日突然的に、ある病院の対応に入り、作業室での徹夜や休日出勤といった状態になりました。そしてそのまま、医療システムの対応をしている事業部に異動してしまいました。医療関連の事業部では、品質マネジメントの業務などをしていたので、ヘルスソフトウェア対応委員会でヘルスソフトウェア推進協議会（GHS）対応なども行ってきました。

JAHISで、すでに3か月を過ごすことができましたが、初めての事にぶつかることが多く、戦略企画部、事務局の方々はじめ、多くの方のサポートの御蔭と感謝しています。事業企画推進室では、「医療等分野におけるネットワークの相互接続の実現に向けた調査研究業務」の推進を担当させて頂いていますが、これは、保健医療福祉分野のネットワーク化の基盤を構築する上で大切な事業と思っています。

2015年1月に「JAHISビジョン2015」が発表されていますが、厚生労働省からは、「2035年、日本は健康先進国へ。」という保健医療2035が発表されています。2017年1月には、厚生労働省内に、大規模な健康・医療・介護の分野を有機的に連結したICTインフラを2020年度から本格稼働させるため「データヘルス改革推進本部」が設置されました。国を挙げて、保健医療分野におけるICT活用の「次世代型保健医療システム」を構築するための活動が進められていますので、JAHISの活動はより重要度を増すものと思っています。そこに、少しでも、微力ではありますが、力に加わることができればと考えていますので、皆様方のご指導の程よろしくお願い申し上げます。

## ご挨拶

運営会議 議長  
(富士通株)

下邨 雅一 Shimomura Masakazu



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの事業運営にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。新年度にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

高齢化の進展や疾病構造の変化（生活習慣病の増加）に伴い、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。平成28年6月の「日本再興戦略2016」および「世界最先端IT国家創造宣言」の改定では、成長戦略のひとつとして「世界最先端の健康立国」が提唱されており、ビッグデータ等の活用による診療支援、IoT等の活用による個別化健康サービス等、医療・介護等分野におけるICT化の徹底が求められました。医療等IDの導入や代理機関（仮称）制度の整備も視野に入っています。平成30年度までに地域医療情報連携ネットワークの全国普及、平成32年度までに大規模病院の電子カルテ普及率を90%に引き上げること等も具体的に示されています。また、同年10月には、保健医療分野におけるICT活用推進懇談会による提言書が取りまとめられ、ICTを活用した「次世代型保健医療システム」の構築に向けて、データを「つくる」・「つなげる」・「ひらく」をキーワードに、平成37年度までの工程表が示されました。

個人の生涯にわたる医療や健康等の情報を経年的に管理・活用するPHR（Personal Health Record）のあり方を検討することも示されています。健康・予防サービスに対する個人の嗜好の高まりや多様化を背景に、サービス需要は今後飛躍的に増大していくものと考えられます。レセプトや健康診断のデータに加えて、ウェアラブル端末等のIoT/IoEによるデータ収集を活用すれば、よりリアルタイムで個人の状況に応じた、効果的なサービス提供が可能となります。ICTを活用した個人向けサービスやデータの蓄積・活用等の進展が期待されています。

各省庁においても、これらの方針に従って調査事業や実証事業等が実施され、推進が図られています。ICTを活用した医療情報連携への評価としては、平成28年4月の診療報酬改定で、診療情報提供書等の電子的な送受信の評価（点数化）や、電子版お薬手帳に対する紙の手帳と同等の評価（点数化）が行われました。

「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（医薬品医療機器等法）」は平成26年11月から施行され、ソフトウェア単体でも法規制が適用されることになりました。法規制対象とならないヘルスソフトウェアにおいても、より一層安心して使用して頂くための業界自主ルールの運用が始まっていますが、ヘルスソフトウェアの製品安全規格であるIEC82304-1への適合やサイバーセキュリティ対策も求められています。

また、改正個人情報保護法が平成29年5月から全面施行され、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」等にも反映される予定です。医療記録は要配慮個人情報のため、その取扱いには十分注意が必要ですが、医療・健康情報等の各種データの更なる利活用を推進し、国民の健康や医療サービスの質の向上に貢献していきたいと思えます。

今後も、行政や学会、各標準化団体とも密接に連携しながら、医療情報標準化の推進、技術の向上、品質及び安全性の確保を図り、国民の保健・医療・福祉に寄与するヘルスケアICTを実現すると共に、業界全体の健全な発展に貢献するよう、事業運営をしていく所存です。ご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

## ご挨拶

総務会 会長  
(日本アイ・ビー・エム(株))

**浅野 正治** Asano Masaharu



JAHIS会員の皆様、日頃より大変お世話になっております。総務会長を担当しております浅野です。

会員の皆様方には平素より当工業会の活動にご理解並びにご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここ最近におきましては、JAHISの活動にご参画いただいている企業数も右肩上がりになり、保健医療福祉分野における情報化の重要性が堅調に現れていることがよく分かります。これも、会員の皆様の日々のご活動・ご支援によると強く感じます。様々な企業の方に当活動にご参画いただくことで、多角的視点での取り組みが推進できると思っております。

さて、いよいよ医療ビッグデータに関する法整備で、病院や診療所、薬局が保有する医療情報の二次利用の推進を目的とした法案が、国会に提出されるとのことです。これは新たな法律で、高い情報セキュリティを有する組織を「医療情報匿名加工・提供機関」（仮称）に認定し、医療機関にとって治療や検査などの情報をこれまで以上に利活用できる環境を醸成してくれるものと期待しております。病院や診療所、薬局が保有する医療情報を集約した医療ビッグデータは、様々な目的で活用できる有用なデータベースになり、特に、新薬開発、医薬品製造販売後調査の高度化や効率化、費用対効果分析、人工知能による診療支援システムの構築、革新的な疫学研究などでの活用が期待されておりますが、本法案は順調にいくと、国会での審議を経て本年5、6月頃に成立する見込みとの報道もあります。

このほか医療等IDは2018年度から段階的運用を開始し、地域単位での構築が進んできた医療連携ネットワークは2018年度以降全国規模に拡大する計画で、レセプトデータを集約したナショナルデータベース（NDB）や介護保険総合データベースの整備や統合は2020年度までに終わるとされています。また、人工知能をはじめとする新たなテクノロジーも生まれ、それらをより安全に、より有効的に活用できるような確かなルールの制定やそれに基づく、社会に貢献するための技術整備が必要になってきます。

これを実現するにあたり、JAHIS会員の皆様の役割が益々重要となるわけですが、総務会は皆様のスムーズな活動をご支援するため、裏方として活動するのがその役割と考えております。

また皆様をご存知の通り、昨年はJAHISのホームページを刷新し、より見やすく、使いやすいようなシステムを構築しましたし、会員の個人別IDを設定し、セキュリティを強化致しました。会員の皆様に対しては、更なるJAHISの参加価値の提供ができればと考えております。

JAHIS会員各位の皆様の益々のご活躍を祈念し、新年度のご挨拶とさせていただきます。

## 新年度の抱負

標準化推進部会 部会長  
(東芝メディカルシステムズ株)

**大沢 博之** Osawa Hiroyuki



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素より標準化推進にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。標準化推進部会の部会長として、新年度にあたり抱負を述べさせていただきます。

“標準化”の概念は紀元前には誕生していたようで、人間が社会生活を形成するにあたり合理的にかつ安心安全に生活するための知恵として生まれてきたそうです。人と人のコミュニケーションの標準として言語がありますが、現社会においてはモノとモノとを繋ぐことが重要になり、IoTということが叫ばれ、またシステムとシステムを繋ぐことも、我々の社会を豊かに安心安全に暮らせることにとって非常に重要であり、そのためには標準化はなくてはならないものであります。

厚生労働省においては、“2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築”を推進しており、また、“ICT・AI等を活用した医療・介護のパラダイムシフトの実現を目指し、インフラの整備”を推進すると言っております。

このような取組みに対し、JAHISはヘルスケアITを活用した高速かつ効率的なシステム構築のための標準類の提供で社会に貢献するとともに、業界のさらなる活性化を図り、会員の皆様が安心して安全に活用できる標準化を目指していきたく思います。

今年度も、昨年度と同様、地域包括ケアの高まり、「病院完結型」から「地域完結型」の医療への転換、医療・介護・健康の連携政策などの世の中の動向に合わせて、ヘルスケアITによる連携実現が重要であると考え、これを、効率的・効果的に実現するために、以下の4項目について重点的に取組み、標準化の推進を図ってまいります。

- (1) 行政・学会・関連団体などと連携して標準化を推進する。
- (2) 医療機器ソフトウェア規制の在り方や運用について、患者安全と利便性に寄与するように関連機関と協力・連携していく。
- (3) 海外標準と日本の要件・状況との整合性を確保するために、海外標準化団体との調整や日本からの標準化推進を行う。
- (4) 標準化を担う人材の確保・育成を実施する。

標準化の推進と普及活動を通じて、本会のますますの発展と、JAHIS会員の皆様への貢献に努力してまいりますので、何卒、会員の皆様のご支援の程、よろしくお願いいたします。

## ご挨拶

医事コンピュータ部会 部会長  
(パナソニック ヘルスケア(株))

**小宮 宏之** Komiya Hiroyuki



陽春の候、JAHIS会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より医事コンピュータ部会の運営に絶大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。新年度を迎えるにあたり、医事コンピュータ部会の2016年度の事業活動の経過報告と今年の展望について述べさせていただきます。

まず、制度対応関連ですが、昨年度の診療報酬改定については厚生労働省等との協議・連携を図りながら、会員の皆様への積極的な情報提供に努め対応して参りました。

国のIT戦略への対応については、厚生労働省の「医療保険のオンライン資格確認に関する関係者会議」への委員派遣によるタイムリーかつ正確な情報入手、また、部会横断活動として「電子処方せん実装ガイド策定」に関し、医療機関と薬局のカテゴリーでのJAHIS技術文書の取り纏めを行ってきました。さらに、電子処方せんにて利用されるJAMI標準用法コードへの対応としてJAHIS技術文書「院外処方せん2次元シンボル記録条件規約」の改版作業を行いました。

新規市場動向や先進ICT適用状況の調査においては、昨年11月にオランダ（アムステルダム）の医療情報の共有や電子処方せんの普及状況の視察として、JAHIS会員10社15名の参加者により6箇所の医療機関、医療関連団体、薬局を訪問し、今後日本における医療のICT化の取り組み推進に向けた有意義な視察を行うことができました。

各活動に積極的に取り組んでいただいた委員の皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

医事コンピュータ部会の2017年度の事業活動ですが、本年8月には高額療養費の見直しによる医療制度改正や来年4月には診療／介護報酬改定等も控えています。当部会では中期計画にのっとり、これまでの活動を継続しながら、以下の運営方針で推進する予定です。

- 1) 国のIT戦略の中で、ICT活用の目的を明確にしながら関係機関と連携を取り課題解決に取り組んでいく。
- 2) 医療／介護保険制度改正や診療／介護報酬改定等のスムーズな対応が実行できるよう、関係機関・団体との連携を強化する。
- 3) 成熟した医事コンピュータビジネスの活性化を図るために、新規市場動向や先進ICT適用状況等を調査し、行政等関係機関に提言を行う。また、会員のビジネス機会拡大に努めるとともに、情報発信、教育等会員サービスの向上に努める。

今後も会員の皆様の発展に寄与できるよう、医事コンピュータ部会の各委員会が一丸となって取り組んで参りますので、引き続き皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 新年度のご挨拶

医療システム部会 部会長  
(株)日立製作所)

**藤岡 宏一郎** Fujioka Kouichiro



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素から医療システム部会活動にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。新年度をスタートするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

政府の主導により、2020年までの5か年間で「集中取組期間」として、医療等分野におけるICT化を徹底的に推進する各種の施策が遂行されております。このような状況において医療システム部会は、従来から患者安全への寄与と医療への貢献を目的とした情報活用基盤の拡大を推進することを事業方針とし、今年度も以下の活動を行う事業計画としています。

- (1) 高品質な医療システム製品と付加価値サービスの提供
- (2) 医療情報標準化の策定と普及推進
- (3) セキュリティ基盤の整備
- (4) 品質安全管理とリスクマネジメントの強化

これらはいずれも医療等分野におけるICT化の推進・発展に寄与すべく活動しているものですが、その推進にあたり、関係団体との協力・協調が近年ますます重要になってきております。

今年度から関係団体と協力・協調して新たに取り組む活動の一例としまして、クリニカルパスの標準化などに関する電子カルテ委員会と関係学会との協議や、医療材料・医薬品のトレーサビリティに関する部門システム委員会と関係団体との協調活動などを実施する予定です。また検査システム委員会では、本年5月に東京で開催されるIHE PaLM (Pathology and Laboratory Medicine: 臨床検査・病理)の国際会議への協力などを通じて、従来からの国内及び国際関係団体との協調関係を継続するとともに、海外の標準化動向の調査と国内への展開を強化していきます。

一方、今春改定される安全管理ガイドライン(医療情報システムの安全管理に関するガイドライン)ではJAHIS標準「製造業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイドが参照されることになりましたが、より使いやすく充実したガイドへとするため、セキュリティ委員会では従来より関係団体と共同で改定作業を実施し、双方の標準としての制定を図っています。

これら以外にも、相互運用性委員会が取りまとめ者となって、関係部会が共同参画する部会横断活動として昨年度策定を進めた電子処方せん実装ガイドなど、JAHIS内での横連携もこれからますます重要・活発になると考えています。

最後になりますが、会員各位ならびに関係者の方々の引き続きのご理解とご協力を賜りますことをお願いして、挨拶に代えさせていただきます。

## 新年度の抱負

保健福祉システム部会 部会長  
(株)NTTデータ

**富田 茂** Tomita Shigeru



JAHIS会員の皆様には、平素より保健福祉システム部会の運営にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。新年度にあたり、一言述べさせていただきます。

政府においては、「日本再興戦略2016」に沿って、

- ① 医療データのデジタル化・標準化（医療情報の利活用の基盤整備）
- ② 患者・現場をつなぐネットワーク化（医療情報の共有・連携）
- ③ イノベーションを生み出すビッグデータ化（医療情報の収集・分析）

の三本柱を立て、医療等分野のICT化が推進されています。更に厚生労働省では、「保健医療分野におけるICT活用推進懇談会」にて提言書が取りまとめられ、ICTを活用した「次世代型保健医療システム」が提唱されました。また、2020年度から大規模な健康・医療・介護の分野を有機的に連結したICTインフラを本格稼働させるために、省内に「データヘルス改革推進本部」が2017年の1月に設置されました。

保健福祉システム部会は、地域医療情報連携関連、健康・健診関連、自治体の福祉介護関連のITベンダー会員の皆様で構成されています。政府が推進している日本再興戦略の実施・達成には、JAHISの本部会が一翼を担い、関係機関と協力しながら活動していくことが期待されていると思います。

このような背景を受け、会員の皆様の事業に寄与することを第一優先に、本部会は、今年度下記の事業方針にて活動して参りたいと存じます。

- (1) 地域の保健・医療・福祉・介護の連携に不可欠なICTの活用を前提とした地域包括ケアシステムの推進のため、施設間や多職種間での連携データの標準化・普及やPHRの実現に向け、関係省庁事業への参加や行政機関、関係団体への積極的な提言を実施し、業界のビジネスの創出を図る。
- (2) 予防・健康管理の推進のため、引き続き関係機関・団体と連携し検討会等に委員を派遣する等、各種健診関連システムの普及やデータヘルス計画の効果的な実施に資する活動・提言を実施する。またヘルスソフトウェア、ビッグデータ分析、PHRの活用等に関連した調査や提言を行い、健康情報活用ビジネスの創出・拡大を図る。
- (3) 平成28年度から開始された番号制度への各種対応に加え、現在検討が進められている医療等分野における番号制度について、関係機関と連携を図り、情報システム分野の専門家として効率的なシステム構想を提言していく。
- (4) JAHISの他部門の委員会等との連携による積極的な情報収集に基づく会員への情報提供、関係省庁・関係機関・学会への積極的な提言を実施する。

最後になりましたが、引続き、本部会の運営にあたり、会員の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## ご挨拶

事業推進部 部長  
(日本電気株)

**青木 順** Aoki Jun



昨年度に引き続き、事業推進部部長を務めさせていただきますNECの青木でございます。JAHIS会員の皆様には、事業推進部の運営に多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

従前よりほぼ固定的なメンバーで活動してまいりましたが、2016年度は副部長、副委員長、事務局業務部長の交代が多くありました。退任された方への労いと新たなメンバーの紹介を兼ねて、以下に記述します。

- ・木南 京子 副部長から鈴木 慶一 副部長へ交代（コニカミノルタ）
- ・事業企画委員会 田中 利夫 副委員長就任（東芝メディカルシステムズ）
- ・教育事業委員会 平鹿 裕実 副委員長から辰野 未央 副委員長へ交代（NEC）
- ・ホスピタルショウ委員会 斎藤 太美男 副委員長から吉岡 康文 副委員長へ交代（富士通）
- ・日薬展示委員会 宮島 毅 副委員長就任（三菱電機インフォメーションシステムズ）
- ・事務局業務部長 千葉 修 部長から吉野 裕夫 部長へ交代（NEC）

さて事業推進部の主な活動は、教育事業と展示博覧会対応であり、4つの委員会と1つのワーキングで対応しております。今年度の事業計画について、以下に紹介します。

## 1. 展示関連について

- 1) 国際モダンホスピタルショウ2017の会員企業への出展促進活動とJAHISブースでの出展を行い、会員各社の出展拡大、JAHISの存在アピール、新規入会の促進を目的に活動します。日程は、7/12（水）～14（金）となります。日本経営協会様と日本病院会様がホスピタルショウの主催者であり、JAHIS交流会(7/12)および出展者プレゼンテーションセミナー(7/13)を通じて、より良い関係を構築していきます。是非JAHISブースへお立ち寄りいただき、また初日のJAHIS交流会への参加もよろしくお願いいたします。
- 2) 第50回日本薬剤師会学術大会(東京大会)併設展示OA機器コーナーの出展取りまとめを行います。日程は、10/8（日）～9（月・祝）となります。いまどきOA機器展示は古いということで、今年からIT機器展示となるようです。詳細については、トピックスで執筆されていますので、そちらをご覧ください。(P42)

- 3) 第37回医療情報学連合大会の実行委員を担当し、会場運営支援および大会実行に関わる企画検討支援を行います。開催日は11/20(月)～23(木・祝)、場所は大阪市グランキューブ大阪(大阪国際会議場)となります。

## 2. 教育・セミナー関連について

2016年度の実施結果を踏まえ、アンケート結果や講師との意見交換をもとに、運営方法・カリキュラム内容などの改善を図っていきます。例年の教育・セミナーの他、今年度の新たな取り組みとして、JAHIS勉強会を企画しており、年3回程度の開催を考えています。「AI技術の活用」や「データの活用」、変わったところで「医療機関向けビジネスマナー」というテーマで、外部講師を招いて実施する予定です。詳細については、部会から「事業推進部」で執筆されていますので、そちらをご覧ください。(P56)

## 3. 書籍「医療情報システム入門 JAHIS編」の改訂

前回の改訂は、2014年3月でしたが、その後の動向を反映し2017年3月に、四訂版として発刊いたしました。改訂にあたっては、JAHIS教育事業「医療情報システム入門コース」の講師陣の皆様、ならびに社会保険研究所様の多大なご協力を得て発刊できましたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。

最後になりますが、事業推進部は「工業会参加価値の追求」を基本方針とし、JAHIS各部会の横断的な協力を得ながら活動を推進してまいります。皆様のご支援、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

# 海外視察報告 ～ HIMSS AsiaPac16 ～

JAHIS 戦略企画部長

**森本 正幸** Morimoto Tadayuki



## 1. はじめに

HIMSS AsiaPac16が2016年8月24日から26日までの3日間タイ・バンコクで開催された。HIMSS AsiaPacは、2007年シンガポールで初めて第1回が開催され、香港、クアラルンプール、北京（展示）・韓国（講演）、オーストラリア、シンガポール、香港、シンガポール、シンガポールと毎年開催されており、10年目にして初めてタイ・バンコクでの開催となった。タイでは医療技術が急速に発展しつつあり、近年、成長する医療ツーリズムと富裕層の増加などから医療需要が拡大、ICT化への期待も高まっている。また、これまでは民間事業者がICT化をリードしてきたが、今回のHIMSS AsiaPac16開催に当たっては、タイ保健省が全面的に協力し、「Advancing Digital and Patient-Centered Care」をテーマに、

- ・ Applying Better Data for Better Health
- ・ Creating Smart Hospitals
- ・ Moving Closer to Your Patient
- ・ Transforming Care Models

という4つの重要テーマでイベントが開催され、今後、官での取り組みも期待される場所である。

HIMSS AsiaPac16は、タイ保健省の情報技術通信局長のPolawat Witookollachit博士の歓迎挨拶、タイ保健相Piyasakol Sakolsatayadorn氏の開会挨拶で始まった。参加者は25カ国1,505名、演題についても40件、出展59社と昨年のシンガポール38カ国1,767名、演題59件、出展66社に比べると、多少小ぶりではあったが、米国、ヨーロッパなど世界からのアクセスを考えると多くの参加者を集めたと評価できるのではないだろうか。会場はタイ・バンコクにあるクイーン・シリキット・ナショナルコンベンションセンター（Queen Sirikit National Convention Center, Bangkok, Thailand）で開催され、講演2会場、展示会場ともに隣り合わせの場所であり、初日は非常に多くの参加者があり、会場もごった返しているといった感じであった。しかし、2日目になると講演会場、展示会場ともかなり参加者が減り、少し寂しく感じられる状況でもあった。また、今回も日本からの参加者は見られなかった。

最終日には、病院施設見学会が行われ、タイで最大の民間病院事業者であるバンコク病院の見学会に参加した。

## 2. HIMSS AsiaPac16

### 1) HIMSS 概要

HIMSS (Healthcare Information and Management System Society) は1961年に米国で設立された非営利組織であり、現在個人会員64,000名以上、企業会員640社以上が参加するヘルスケアIT関連の世界最大の組織である。シカゴに本部を置き、ワシントンおよびヨーロッパ（ドイツ・ベルリン）、アジア（シンガポール）に支部を置いている。HIMSSとしては設立翌年の1962年に米国バルチモアで早くも大会を開催しているが、アジア環太平洋地域を中心としたHIMSS AsiaPacが開催されたのは2007年シンガポールの大会が最初である。2016年はタイ・バンコクにあるクイーン・シリキット・ナショナルコンベンションセンターで開催されることになった。タイは2015年の医療観光が30億ドルもの経済効果を生み出しており、年々およそ15%の成長を続けているなど、医療市場の成長が著しい国のひとつである。

### 2) HIMSS AsiaPac16の参加者

今年のHIMSS AsiaPac16の参加者は1,505名であり、昨年の参加者数より15%減少した。また、参加国も25カ国と、昨年の38カ国よりはやや小ぶりの参加概況であった。

表1 HIMSS AsiaPac16の参加国

地域	参加国
アジア	インド、インドネシア、韓国、カンボジア、シンガポール、スリランカ、タイ、中華人民共和国（香港、マカオ含む）、中華民国（台湾）、日本、バングラデシュ、フィリピン、ベトナム、マレーシア
欧州	エストニア、フランス
アメリカ	米国、カナダ
オセアニア	オーストラリア、ニュージーランド

参加者を所属組織別で見ると、ITベンダーの25%が最も多く、次いで病院や診療所などの経営関係者が17%、医療従事者が12%と続く。

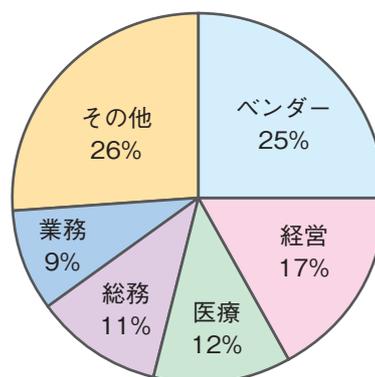


図1 所属組織別参加者

### 3) 演題数

演題は大会企画講演が7件、一般講演が30件の計37件であった。また、講演以外にもパネルディスカッションが1件、オープニングとクロージングのセレモニーがあった。発表者の国別で見ると、米国

が最も多く、シンガポール、オーストラリアと続いた。今回、日本からの講演は無かった。

表2 国別演題数

	大会企画講演	一般演題	計
米国	5	8	13
シンガポール	1	6	7
オーストラリア		7	7
タイ	1	3	4
中国		2	2
マレーシア		1	1
オーストリア		1	1
インド		1	1
UAE		1	1
計	7	30	37

### 3. 演題内容

以下に演題内容を紹介する。本報告書では“Creating Smart Hospitals” および” Applying Better Data for Better Health” を中心に報告する。本学会では、その他” Moving Closer to Your Patient”、” Transforming Care Models” を含めた4大テーマでの講演が行われた。

#### 1)開会基調講演

Ochsner Health System社の臨床改革責任者であるRichard Milani博士による、慢性疾患に関する講演が行われた。増加する慢性疾患患者に対する、生活習慣面およびソリューション面でのケア方法についての提案が主であった。東南アジアでは62%もの死因が慢性疾患によるものであるという。

生活習慣面では、仲間とともに習慣を変えるよう努力し互いに影響し合うこと、果物を摂取すること。ソリューション面では「患者が頻繁にバイタルデータを送る ⇒ 医師が個人の特徴を知る」というフローを作ることを、タイムリーにデータを送るモバイルアプリの紹介と同時に推奨していた。

#### 2) Creating Smart Hospitals

スマートホスピタル構想をテーマとしたセッションを聴講した。病院システム構築における特徴やリスクを紹介する講演が主だったが、我が国のヘルスケアシステム事情にも通ずる内容であったので、紹介したい。

まずシステム開発および運用におけるリスク例として、「病院内組織に乱立しているテクノロジーやプラットフォームの統一」「開発プロジェクトの巨大化」「院内トレーニング不足に起因するマシン操作エラー」が挙げられた。さらに、病院向けの開発プロジェクトには失敗例が多いとの話があった上で、その理由として「複雑な病院運用や、巨大な病院組織の構造の把握」「技術未発達な中で要求される高レベルのシステム仕様」が挙げられた。

また、東南アジアや中国などの新興国のヘルスケア市場の特徴として、人口の爆発的増加と、それに伴う医師・病院不足が顕著であることを提示したうえで、これからの市場展開に期待することとして以下の内容が提示された。

- ・いつでも／どこでも診察が受けられる環境

- ・ 医師中心から患者中心の医療へ
- ・ システムを安全から信頼へ  
(=ストレスなく扱える)

さらに意思決定支援システム（CDSS: Clinical Decision Support System）に関する紹介講演では、既知の医学知識を体系化し、診察時に医師がYes/Noで答えて疾患名および処方を選択するシステムの紹介が行われた。医師の知識不足を補い、どこでも同レベルの医療を受けられるようにすることが目的であると伺った。



パネルディスカッションの様子

### 3) Applying Better Data for Better Health

本セッションでは、臨床情報など、病院ごとに蓄積される医療データをいかに活用できる形に持っていか、という講演が主であった。データを蓄積して知識として持ち、意思決定のための素材とするためには、データのクレンジングが重要となる。まず対象データに対し基準を作り、単純化すること。基準を作るには、記述ルールを考え、規則化することが大切である。次にデータを貯める段階について、既知の医学知識データと、日々蓄積される医療データについては、異なる貯めかたを推奨された。既知のデータに対してはバッチ処理、日々蓄積されるデータに対してはストリーム処理。それぞれに対してアプローチを行うようなフローを考えるべき、との提言があった。

では具体的に、病院でのデータを一元化するとすると、先ずプラットフォームの統一が重要であり、主要なデータは何であるか。それは、①臨床研究 ②患者看護 ③手術管理 であり、これらのデータをいかに統合化するかが鍵であるという。

### 4) 閉会基調講演

国際医療機能評価機関（JCI）のPaul Chang博士による閉会基調講演は、高い信頼性における組織を目指した病院改革におけるICTの役割についての内容であった。JCIの持つフレームワークを例として、ICTによってヒューマンエラーや医療事故の減少を実現できることを紹介した上で、「良い感じで成り立っている組織は、定まった解決策を持たず、常に動いてプロセスを変化させ続けている」と締めた。



講演会場

表3 HIMSS AsiaPac16 講演 演題一覧

Wednesday, 24 August 2016

Opening Keynote (Plenary Session 1): Engineering Health Care Delivery to Combat Chronic Disease Dr. Richard V. Milani, Chief Clinical Transformation Officer, Vice-Chairman of the Department of Cardiology; Professor of Medicine, Ochsner Health System; Ochsner Clinical School – The University of Queensland School of MedicineUSA	
Moving Closer to Your Patient	Creating Smart Hospitals
Keynote Session M1 - The Internet of 'Healthy' Things, the Story of Singapore - The SMART Nation Dr. Chong Yoke Sin, Singapore	Keynote Session H1 - Panel Discussion: 'Strategic Framework to Creating Smart Hospitals' Moderator: Mr. John Daniels, USA Panelist 1: Dr. Hwang Hee, Korea Panelist 2: Adj. A/Prof. Gamaliel Tan, Singapore
Session M2 - VMware Digital Clinical Workspace - Transforming the Cost, Quality and Delivery of Patient Care Ms. Tisa Murdock, USA	Session H2 - Using an Enterprise Communication Strategy to Improve Workflow and Patient Experience Mr. Gautam Shah, USA
Session M3 - Web-Based Portals for Oncology Patients (Patient Engagement, USA) Dr. Jonathan Schaffer, USA	Session H3 - Improving ICT Success and Smart Hospital Flow Through Co-design Methodology (Co-design Procurement Framework, Australia) Dr. Stephen Chu, Australia
Session M4 - Moving Back to the Heart of Healthcare: Getting Closer to the Patient Dr. Sean A. Frederick M.D., University of Pittsburgh Medical Center	Session H4 (Reserved for Industry Solution Session) Mr. Andy David, SAP
Session M5 - Intelligent in Emergency Medical Service System: iEMS (SMART Healthcare, Thailand) Mr. Pheeradetch Samroumram, Thailand	Session H5 - Strategic Partnerships Leading to Improved Adoption and Safety during Transformation (Patient Safety in Clinical Transformation, Australia) Ms. Renea Collins, Australia
Session M6 - Engaging Clinicians and Consumers in Digital Health Dr. Monica Trujillo, Australia	Session H6 - Transforming Clinical Decision Support for Tomorrow's Healthcare Mr. Dave Patnaik, Singapore
Session M7 - Teleoncology Models of Cancer Care: Care Closer to Home for Rural and Indigenous Patients (Telemedicine, Australia) Dr. Sabe Sabesan, Australia	Session H7 - Top Ten Health IT Hazards and What to Do about Them (Health IT Safety, Malaysia) Mr. Eric Woo, Malaysia
Session M8 - A Mobile Rounding Solution for Optimal Clinical Efficiency and Patient Outcomes (Physician Connectivity) Ms. Hong Huang, China	Session H8 - Digital Hospitals in Emerging Market Mr. David McKeering, Singapore
Session H10 - Smart Care Processes Electronic Blood Product Management Mr. Benjamin Mah, Singapore	Session H9 - Pathways: Improvement in Care Coordination (Clinical Pathways, Singapore) Mr. Andy Tan, Singapore
Closing Keynote (Plenary Session 2): The Digital and Patient-Centered Care Journey in an Integrated Delivery System Mr. Scott MacLean, Deputy Chief Information Officer, Partners Healthcare, USA	

Thursday, 25 August 2016

Opening Keynote (Plenary Session 3): Advancing Digital and Patient-Centered Care Requires Competent Clinicians and Informatics Professionals Dr. William Hersh, Professor and Chair, Department of Medical Informatics & Clinical Epidemiology (DMICE), Oregon Health & Science University, USA	
Applying Better Data for Better Health	Transforming Care Models
Keynote Session D1 - Formula to Successful Data Analytics: HIMSS Adoption Model for Analytics Maturation Mr. John Daniels, USA	Keynote Session C1 - Transforming Care for Rural Population, Thailand Delivers EMS at its Best Through the Optimal Use of IT Dr. Anuchar Sethasathien, Thailand
Session D2 - Vendor Neutral Archives and Data Lakes: Necessary Infrastructure for Precision Medicine Mr. Sanjay Joshi, USA	Session C2 - The Journey to a Learning Health System is Through a VNA Mr. Larry Sitka, USA
Session D3 - Developing an Enterprise Data Warehouse (EDW) for Operational Efficiency and Better Patient Outcomes (Infrastructure, China) Dr. Wu Zhengyi, China	Session C3 - Public Health Crises: The Crucial Role of Information Systems (Public Health, USA) Mr. Peter Morgan, Singapore

Session D4 - Harnessing the Power of Clinical Practice Guidelines to Deliver Value in Healthcare Ms. Judith A. Moomjian RN, Ms. Michelle Troseth MSN, USA	Session C4 - Transforming Care Through Collaborative Care Management and Services Co-ordination (Care Models) Dr. Stephen Chu, Australia
Session D5 - Public-Private Patient Information Interoperability Mr. Bret Watson, Australia	Session C5 - Leveraging Care Pathways and Technology to Deliver World Class Care Dr. Manish Kohli M.D, UAE
Session D6 - Gain Real-Time Clinical and Business Insights with Wire Data Mr. Eric Thomas, USA	Session C6 - Beyond Babel: Overcoming Clinical Terminology Uncertainty in a Thai University Hospital and Beyond by Adopting SNOMED CT - A Case Study A/Prof. Cholatip Pongskul M.D., Thailand Dr. Jan Johan Ipe, Malaysia
Session D7 - Experience with Analyzing Health Data for Patient Care & Safety – Linking Risk with Action for Better Patient Outcome Dr. Dinesh Jain, India	Session C7 - Intelligent Home Risk Based Monitoring Solutions that Enable Post-Acute Care Surveillance (Home Care, USA) Dr. Jonathan Schaffer, USA
Session D8 - IHE: How to Achieve Successful Interoperability within and across Healthcare Organizations Mr. Jürgen Brandstätter, Austria	Session C8 - Use of Kiosk-Based Technology in the Management of Chronic Disease (Self-Care, Singapore) Dr. Grace Ng, Singapore
Session D9 - Princess Alexandra Hospital: Digital Identification of the Deteriorating Patient (Preventive Care, Australia) Dr. Clair Sullivan, Dr. Andrew Staib, Australia	Session C9 - Efficacy of Chemotherapy Education Program in a New Computer-Assisted Instruction (CAI) in Solid Cancer Patients (Self-Care, Thailand) Mrs. Paranee Phongnopakoon, Bangkok Hospital, Thailand
Closing Keynote (Plenary Session 4) - Role of Technology in Transforming Hospitals towards High Reliability Organizations Dr. Paul Chang, Vice President of Accreditation, Standards and Measurement, Joint Commission International (JCI), USA	

#### 4. 出展企業

企業・病院展示合計59の出展があり、日本企業は富士通、SATO、SONYの3社であった。昨年シンガポールではNTTデータ、東芝、SATO、SONYであり、SATO、SONYは2年連続の出展となった。

富士通は、類似症例検索・疾病管理、オーラルケア、マタニティ、心臓シミュレータ、MEDOC（ドキュメントファイリング）、静脈認証付き再来受付機の展示を行っていた。

SONY（Sony Professional Solutions Asia Pacific）は、手術画像などの高精細画像をVIDEOコンバータを活用した光伝送システムおよび画像ファイリング技術、画像データ処理を展示。遠隔医療の実現や教材作成をアピールしていた。

SATOは、独自のRFID技術を持つMAGELLAN TECHNOLOGY社（本社：オーストラリア・シドニー）の事業を2013年12月買収し、MAGELLAN社の持つ、高速・高精度なICタグの読み取りを実現する独自の技術（=PJM RFID技術）で、HF帯RFIDの拡販を積極的に推進し豊富な実績を有している。

液体容器に貼っても読み取りが可能なRFIDを、注射薬など高額な医療品、医療材料に貼付することで、複数の物品を一括スキャンできるシステムを提供し、物品・材料のリユースや廃棄削減、スキャン作業の効率化を実現し評価を受け、本システムを活用することで、病院経営改善の面でも貢献し評価されているとのこと。

タイなどは自らの氏名を変える習慣があるため、患者IDと氏名を連動させるネームバンドなどの普及が難しい面があるとの話があった。

以上の通り、日本からは電子カルテなどシステム展示は無く、米国のCerner、Allscripts、InterSystems、ニュージーランドのOrion Healthなどを始め、今年も欧米勢の独断場という雰囲気であった。

世界No.1電子カルテベンダーであるCernerでは、言語対応について確認すると1バイト文字以外対応するつもりはないとのこと、現在、英語、ドイツ語、スペイン語に対応しているとのこと。従って日本、中国、韓国といったマルチバイト文字が母国語である国への展開は積極的ではなく、日本へも進出していない。

ELSEVIERは、医学書籍の大手出版社であり、その人材ネットワークを生かし、世界のドクターと連携し、医療辞書を構築、日々情報収集を図っている。医学知識リファレンスシステムを、CDSS (Clinical Decision Support System) として紹介していた。世界中の数千万に及ぶ専門家から、リアルタイムに知識情報がアップデートされていくため、常に最新の公共知識データベースが形成されていくとのことである。医師はシステム上で症状を選択していくと疾患の候補を選択できたり、疾患から処置方法などの情報を得たりすることができるようになっている。このようなCDSSに関する展示も数多く見受けられた。



## 5. 病院見学

HIMSS主催の病院見学ツアーに参加した。3病院の見学候補があったが、タイに多数の系列病院を保有しているバンコク病院のツアーを選択した。病院経営者のプレゼン聴講や、病院内のシステム見学を行う、半日ほどのプログラムであった。

バンコク病院は20の病院と関連のグループ病院21病院を合わせて、タイに41病院、カンボジアに2病院を持つタイで最大の民間病院事業者で先進システムを導入・運用している。また、HIMSSではEMRAM (Electronic Medical Record Adaption Model) 評価として、システムが導入されていないStage0からフルの電子カルテシステムが導入されペーパーレスが実現されているStage7までの8段階で評価しており、バンコク病院は今回Stage6を受賞している。さらに今回説明を受けたSomsak Wankijcharoen博士はHIMSS Healthcare IT Leader of the Year Awardを受賞されている。

### 1) BANGKOK HOSPITAL 病院の概要

- ・ 設立            1972年設立
- ・ ベット数       343床 (一般：287床 + ICU：56床)
- ・ 外来患者数    3,000人/日  
                          タイ：72%、国際：28%  
                          日本人専用クリニックを備える
- ・ 医師数        969人

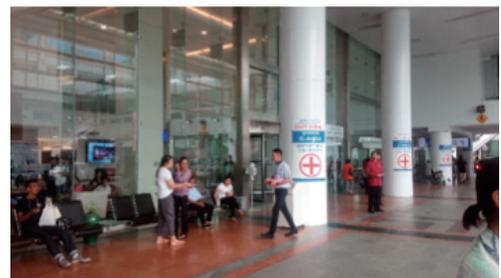
・総スタッフ数 2,240人

Bangkok Dusit Medial Services Public Company Limited  
(BDMS)

施設名称	施設数	ベッド数
Bangkok Hospital	20	3,136
Phyathai Hospital	5	1,340
Samitivej Hospital	5	1,195
Paob Hospital	4	798
BNH Hospital	1	144
Royal International Hospital	2	130
Local Hospital	6	926

## 2) CIOプレゼン

バンコク病院のCIOである、Somsak Wankijcharoen博士によるプレゼンを聴講した。バンコク病院は、タイ国内に系列20病院を擁する中核病院として、先進システムを導入、運用している。電子カルテシステムは1990年より運用を開始しており、オーダリングのフローはすべてICT化されている。そして、データベースシステムを整備し、DWHも構築されており、既知の医学情報を体系化したCDSS、患者の外来情報（住所、疾患、診療科など）の統計を参照できる意思決定支援システムを搭載している。また、iPadなどモバイル端末からのアクセス環境も実現しているとのこと。プレゼン内では、CDSSのデモが行われた。



バンコク病院外観

## 3) 病院システム見学

院内見学を行い、システムの運用事例を紹介された。案内されたのは一般病棟およびICUである。

一般病棟では3点チェックの運用を紹介された。バーコードを用いて、看護師情報の入力、そして患者情報、薬剤情報、オーダ情報の照合を実施する。なおSomsak博士から聞いたところによると、患者IDについては、系列病院で統一化する取り組みを進めているとのことである。現在は2、3病院のみ共通IDを用いているが、順次拡大していき、EHRにつなげていきたいとの展望を語ってくれた。

ICUではバイタル情報を機器ごとに収集し、1画面に統合して表示するデータ連動機能の紹介を受けた。データ転記などの手間が省け、結果として業務効率化や医療安全につながるとの説明があった。また、点滴注射の実施においても、輸液ポンプと連動し記録の自動化を行っている。



病棟見学



ICU見学



ツアー内ランチタイム

今回の病院見学で判明したことは、少なくともタイの主要病院では、我々が取り組んできたヘルスケアソリューションの道を行んでいるということであり、日本の先進的電子カルテシステムと比較して、全く遜色の無い同等のシステムが導入されている。むしろ部分的には日本よりも進んでいるという状況であった。HISはインターシステムズのパッケージ「TrakCare」(25カ国の導入実績)が導入されていた。本パッケージは日本での販売は行われていない。バンコク病院のシステムは、ほぼ米国のものが導入されており、全て言語は英語であった。病棟見学においては、現場の看護師から説明を受けたが、タイ語での説明を電算担当者が英語に通訳してくれた。電算担当者は英語を話せる人が多かったが、現場の看護師は皆さんタイ語であった。このようなことから失礼ながらシステムを運用するうえで言語上の問題は無いのかと疑問を感じた。

これからのシステムは益々便利になり、より多くの患者の助けになることが期待できると同時に、院内セキュリティといった安全面の整備など、医療面以外の安心・安全を築くことも注目されることが予想される。



## 6. おわりに

今回のHIMSS AsiaPacは、初めての参加であり、海外の病院見学も初めての経験であったが、医療市場の成長が著しいタイを実際に見聞することができ、バンコク病院の見学では、医療技術や施設の進歩、情報システムの状況を肌で感じる事ができた。

食事は、辛いものを好んで食べたわけではないが、毎食辛いという印象で、展示会場にはランチが用意されていたがやはり多くは辛いもので、こちらもかなり刺激的であった。

病院見学にて用意いただいたランチも何種類もあり、ガッパオのようなものを選択したが、見ていたCIOがこれは日本人には辛くて無理でしょうと別なものと交換してくれた。やさしいおもてなしに感謝。

HIMSSは、講演会と展示会で新しい技術や先進システムの紹介を行うとともに、EMRAM評価を始めシステム導入評価指標を確立し、ICT導入評価と合わせユーザや個人を表彰している。そしてこれらは、各病院のICT導入状況の客観的評価や差別化、モチベーション向上のツールとして活用され、HIMSSイベントが会員企業も含めたグローバルなビジネス展開の場と位置付けられている。その勢いには、感嘆させられた。

このようにHIMSS AsiaPacでは、多くの刺激を受けた。

ヘルスケア分野として医療機器では、官民一体でグローバル展開の取り組みが進んでいる。ヘルスケア分野の情報システムにおいて標準化を中心に活動しているJAHISとしても、国内標準化から国際標準化に向けた活動強化、S (Standards) × R (Regulations) 戦略といった標準化を強制規格化にする動きなどを含め、我が国産業界の国際市場での優位性を確保する活動が重要になると思われる。

最後になりましたが、今回HIMSS AsiaPac16視察の機会を与您にいただいた工業会ならびに関係各位、視察に同行および本報告書作成にご協力いただいた、大坪 峻之氏にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

# オランダにおける医療保険制度・ 医療ICT化視察調査報告

医事コンピュータ部会

2003年「韓国医療保険EDIシステム視察」から始まった医事コンピュータ部会主催の海外視察研修は、今回のオランダにおける医療保険制度・医療ICT化状況視察調査で12回目を迎えた。

日本では、電子処方箋の運用やオンラインによる医療保険の資格確認の検討も始まり、医療分野におけるネットワークを活用したデータの共有および活用は、最も注力すべき分野である。そこで今回は、この分野に積極的に取り組み、実績を上げているオランダを視察先として企画することとなった。

今回の視察では、オランダの医療制度を担っている各組織を訪問した。GPクリニック（かかりつけ医）や病院（専門医）、薬局および政府機関である。

GPクリニック（かかりつけ医）では、Medisch Centrum Anatomie Amstelveenを訪問した。オランダでは国民はGPに登録することになるが、診察を受ける場合はまずそのGPに診てもらうこととなる。患者の登録や、施設間の情報連携などにおけるシステムの活用および業務遂行に関わる話を聞くことができた。専門医へエスカレーションする場合、病院の状況（空床状況や待ち日数など）も検索可能で、システム間で連携するためのインタフェースがしっかりと確立されていることが窺えた。また日本人スタッフからも話を聞くことができ、日本人の視点から見た医療制度の違いなど具体的な内容を聞くことができ、理解を深めることができた。

次にGPからエスカレーションされる専門医である病院について、アムステルダム大学附属病院およびユトレヒト大学医学部附属病院を訪問した。アムステルダム大学附属病院では、ICTを活用した先進的取り組みとして、遠隔診断に関わる話を聞くことができた。皮膚病患者がスマートフォンの写真を活用する取り組みや、眼科の患者が眼鏡屋の装置で撮った情報を共有する仕組みなどである。日本でも実証事業などで取り組んでいる分野であり、機器の進化とともに今後さらに推進されると感じた。またこういった先進的な取り組みは、GPで対応できる範囲を拡張し、専門医による受診を減らす目的を明確に持ったものであった。もう一つの訪問先であるユトレヒト大学医学部附属病院では、慢性疾患向けのセルフケアに関する取り組みを聞くことができた。糖尿病や心臓病の疾患を持った患者がICTを活用しセルフケアを行い、主治医とやり取りを行ったり、患者同士のコミュニティなどに参加している。患者がセルフケアを実施することはGPにも指導料として収入が入る仕組みにもなっており、制度と仕組みがうまく連携できている一例を確認できた。

薬局については、大手薬局チェーンであるBENUを訪問した。ヨーロッパ各国で展開している薬局チェーンであり、実際の薬局にも訪問し、電子処方箋から始まる調剤の流れを見ることができた。初回の服薬指導はしっかりと丁寧に実施しつつも、2回目以降の薬の受け取りに関しては大きな変化がない限り、効率化や患者サービス向上に取り組んでおり、先進的機器を活用した実運用も確認することができた。

そして政府機関としては2団体を訪問した。1つは前出の薬局に関わるオランダ国立薬剤師協会(KNMP)である。オランダでは薬剤師に対する社会的地位は医師と同等で、GPや専門医と連携しながら業務にあたっている。KNMPでは薬品DBのほか、患者の処方内容やサポートするためのツール提供などシステム面でのサポートも充実している。もう1つの団体はNational IT Institute for HealthcareのNICTIZである。オランダ国内におけるeHealthインフラ整備や法的規制を担っている団体である。ICT化の取り組みをリードして積極的に進めてきた団体でその成果も大きい。一方で利用率低迷という大きな課題を抱えている話を聞くことができ、なおその課題解決に向け意欲を持って推進されていた。

今回の視察全体を通して、オランダでは様々な施策を推進する場合、まずはボトムアップで始め、そしてある程度軌道に乗ったところでトップダウンによる整備をするという手法にて進め成果を出していた。国民性の違いなどもあるものの、日本における施策展開においても参考になる部分も多く、継続して動向を把握していきたいと考える。

医事コンピュータ部会では、1社もしくは個人では実現困難な海外視察研修を企画・実施することにより、海外の医療情報分野に目を向け、情報収集と見識を深めるとともに、これらの経験を部会活動に活かし、継続的に保健医療分野のICT化の推進と市場創造・市場拡大の実現に向けて取り組んでいきたいと考える。

最後に、医事コンピュータ部会の会員を中心とした15名・10社による視察団を結成することができ、視察の成功に至ったことに対し、参加者各位のご協力に感謝を申し上げたい。

なお、視察先などの概要については次ページ以降を、また、視察調査結果内容の詳細については、調査報告書として取り纏めたので、是非ご覧頂きたい。

## 1. 視察概要

### 1) 日程

平成28年11月6日（日）～11日（金） 4泊6日（機中1泊）

### 2) 調査団



<調査団一覧（順不同）（敬称略）>

No	氏名	会社名	氏名
1	小宮 宏之	パナソニック ヘルスケア	団長
2	高橋 弘明	NTTデータ	副団長
3	佐藤 慎治	富士通	
4	西村 寿夫	パナソニック ヘルスケア	統括責任者
5	富田 茂	NTTデータ	
6	大沢 博之	東芝メディカルシステムズ	
7	松永 錦弥	パナソニック ヘルスケア	
8	宿里 幸治	日立メディカルコンピュータ	
9	柳原 毅志	富士通	
10	星野 昌洋	日立製作所	
11	鍋田 啓太	データインデックス	
12	壽山 雄己	テクノプロジェクト	
13	紺野 真史	日立INSソフトウェア	
14	小川 智哉	コニカミノルタ	
15	岸 和彦	JAHIS	全体管理

## 2) オランダの医療概況

### (1) オランダの医療

- ・ 2006年の医療制度改革により社会保険制度から民営化社会保険制度に移行。枠組みは国が提供するが、保険の運用主体を民間組織に任せる形態
- ・ 医療資源を効率的に活用しているものの、医療費は高い。
- ・ 他の先進国と同様、高齢化や慢性疾患の患者増により、10年前と比較し約1.5倍に医療費が増大している。
- ・ かかりつけ医（GP）制度が確立されている

### (2) 医療の提供体制

提供機関	数
病院	146 ※
診療所	約4,100
調剤薬局	1,997
かかりつけ医	8,843
専門医	約18,000 ※
看護師	約32,000 ※
薬剤師	2,859

数値はオランダ国立薬剤師協会のプレゼン資料より。※はITコンサルタントの妙中氏プレゼンより。

### (3) 医療保険制度

- ・ 医療保険制度の特徴
  - ① 2006年の医療制度改革により民営化社会保険制度に移行
  - ② 国民皆保険
  - ③ かかりつけ医（GP）制度が確立
  - ④ 診察料は基本的に無料
  - ⑤ 18歳以下は保険料無料
- ・ 国民は保険加入が義務付けられ、被保険者は保険者を自由に選択することが可能。保険会社は加入を拒否できないのが特徴。
- ・ オランダの医療保険制度は3階層に分類される。
  - 特別医療費保険
  - 短期医療保険
  - 補完保険

### (4) 医療分野におけるICT化の現状

- ・ オランダのEMRの普及率は、2012年の時点で98%に到達しており、ノルウェーと並んで世界1位
- ・ 政策として、10年以上前から医療機関間のデータ連携に力を入れている。

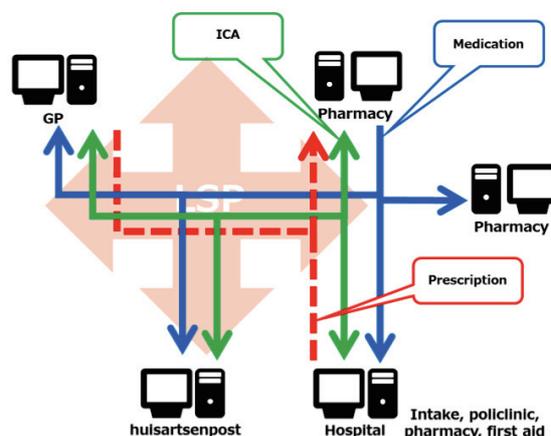
- ・近年では、コンシューマヘルスケアが注目されている。フォーマルケア（医師などによる医療行為）とインフォーマルケア（個人の行為）の境界がなくなっている。

#### （地域医療連携システム）

- ・オランダ eHealth 協会により、全 12 州の 32 地域の全医療管理地域において医療情報連携ネットワークが運用されている。
- ・参加機関数は、2014 年末時点において、病院で 146 ケ所、診療所で約 4,100 ケ所、薬局（処方箋取り扱いのみ）で 1,997 ケ所と、多くの機関が医療情報連携ネットワークに参加している。特に病院においては、既にオランダの 98% が参加。

#### （電子処方箋）

- ・2014 年 1 月 1 日より処方箋は全面電子化されており、手書きや書面による手続きは行われていない。
- ・処方箋は、診療所において医師が記述し、「National Switch Point」ネットワークを経由して処方箋薬局に送付される。



### 3) 視察先

#### （1）訪問先：アンナトミー医療センター（Medisch Centrum Annatomie Amstelveen）

■日時：2016年11月7日（月）12:00～13:00

■面談者：Dr. Harriet Wams、Ms. Kazumi Yoshimatsu

#### ■訪問先概要

多くの日本人が居住するアムステルダムフェーンに位置する医療センターで、2012年に設立された。複数人のかかりつけ医（GP）が所属し、プライマリ・ケア機関として質の高い一次医療サービスを提供している。また2014年10月より同施設内にJEC ジャパンクリニックが開院し、日本人医師による定期健康診断とフォローアップを中心とした日本人向けの医療サービスも始まっている。



(2) 訪問先：アムステルダム大学附属病院 (Academic Medical Center Amsterdam)

■日付：2016年11月7日(月)14:30～16:30

■面談者：Prof. Dr. Leonard Witkamp

■訪問先概要

ヨーロッパでも有数な名門大学であるアムステルダム大学の附属病院。インターネットを利用した Telemedicine を開発し運用を行っている。



(3) 訪問先：ユトレヒト大学メディカルセンター (University Medical Center Utrecht)

■日付：2016年11月8日(火) 9:30～12:30

■面談者：Dr. Pieter Jeekel (講演1の発表者)

Dr. Karel GM Moons (講演2の発表者) 他

■訪問先概要

オランダ第四の都市ユトレヒトにある公立大学の附属病院であり、オランダで最も大きな病院の1つである。本大学が推進している eHealth を活用したセルフケアに対する先進的な取り組みは欧米各国から注目を浴びている。



**(4) 訪問先：オランダ国立薬剤師協会(KNMP : Dutch Pharmacists Association)**

■日時：2016年11月9日（水）10:00～11:30

■面談者：Judith Bijloos, KNMP communication advisor 他

**■訪問先概要**

オランダ国立薬剤師協会（KNMP）は、科学的な知見に基づいた最適かつ革新的な薬学的ケアを推進するための団体として活動している。会員登録は義務ではないが、オランダ国内約92%の薬剤師が会員となっている。

**(5) 訪問先：ベヌ処方箋薬局(BENU Apotheek)**

■日時：2016年11月9日（水）12:00～13:00

■面談者：Mathijn Brummelhuis 他

**■訪問先概要**

BENUはオランダ国内で502店舗の調剤薬局を運営する最大手の薬局チェーンである。今回はデン・ハーグにある店舗を視察した。また、BENUを擁するPhoenixグループは医薬品の製造から物流、小売りまで全てを包括している。



(6) 訪問先：オランダ国立医療IT研究所(NICTIZ : National Institute for IT in Healthcare)

■日付：2016年11月8日(火)15:00～17:00

■面談者：Michiel Sprenger（ミハイル スプレンガー）PhD

■訪問先概要

2002年、オランダ国内の医療ICTの推進を目的に設立され、政府からの予算支援を受けているが独立機関である。医療ICTの専門的な能力を有する。主な役割として、①医療ICTに関する標準の定義と維持、②医療ICTに関する専門知識とアドバイスを提供し戦略から実施までを支援、③オランダのeHealth状況のモニター、④医療ICTに関係する人々や組織の連携の推進を行っている。



# 第22回 JAHIS 講演会 & 賀詞交換会 開催される

第22回 JAHIS 講演会 & 賀詞交換会を1月11日（水）イイノホール & カンファレンスセンター（東京都千代田区内幸町）にて開催しました。

第一部の JAHIS 講演会では、下邨運営会議議長より「2017年の年頭にあって」との演題で講演させていただきました。引き続き特別講演として、元シンクロスイマー・教育/スポーツコメンテーターの武田美保氏より「夢を追いかけて」と題してご講演をいただき、会場の皆様からの活発な質問にも応答いただきました。

第二部の平成29年賀詞交換会では、山本会長の挨拶に始まり、関係各省・関係団体様よりご挨拶をいただきました。新規入会された会員様の紹介コーナーでは、出席された3社の方より自社の紹介および抱負を語っていただきました。

会員並びにご来賓の方々とスタッフを入れて参加者は218名を数え、盛会のうちに閉会しました。

## 第1部 JAHIS 講演会

司会進行	大崎朋子
(1) 開会挨拶	総務会会長 浅野正治
(2) 「2017年の年頭にあって」	運営会議議長 下邨雅一
(3) 特別講演「夢を追いかけて」	元シンクロスイマー 教育/スポーツコメンテーター 武田美保氏
(4) 質疑応答	
(5) 閉会挨拶	総務会副会長 島田和之

## 第2部 賀詞交換会

司会進行	大崎朋子
(1) 開会挨拶	JAHIS 会長 山本正巳
(2) ご来賓挨拶	
厚生労働省 政策統括官付	参事官 佐々木裕介 様
経済産業省 商務情報政策局 ヘルスケア産業課	課長 江崎禎英 様
総務省 情報流通行政局 情報流通高度化推進室	室長 吉田宏平 様
内閣官房 情報通信技術 (IT) 総合戦略室	内閣参事官 上村昌博 様
一般社団法人日本医療情報学会	理事長 大江和彦 様
一般財団法人医療情報システム開発センター	理事長 山本隆一 様
(3) 新規入会会員 ご紹介 (3社)	
(4) 中締め	事務局長 鈴木義規
(5) お開き	



講演会 開会挨拶  
浅野正治 総務会会長



講演「2017年の年頭にあって」  
下邨雅一 運営会議議長



特別講演「夢を追いかけて」  
武田美保 氏



講演会 閉会挨拶  
島田和之 総務会副会長



賀詞交換会会場



山本正巳 JAHIS 会長



厚生労働省 政策統括官付  
参事官 佐々木裕介 様



経済産業省 商務情報政策局  
ヘルスケア産業課  
課長 江崎禎英 様



総務省 情報流通行政局  
情報流通高度化推進室  
室長 吉田宏平 様



内閣官房  
情報通信技術 (IT) 総合戦略室  
内閣参事官 上村昌博 様



一般社団法人  
日本医療情報学会  
理事長 大江和彦 様



一般財団法人  
医療情報システム開発センター  
理事長 山本隆一 様

# 平成28年度 第25回医事コンピュータ部会 業務報告会・特別講演

平成28年度の医事コンピュータ部会業務報告会・特別講演は、39社85名の会員様のご参加を頂き、開催いたしました。

佐藤副部会長の司会により、小宮部会長による平成28年度の部会活動及び平成29年度に向けた活動の紹介、7委員会の各委員長からは、平成28年度の委員会活動に係るトピックスの報告、高橋副部会長より、昨年11月に医事コン部会主催で実施しました、「オランダにおける医療保険制度・医療ICT化視察調査」の報告が行われました。

特別講演では、厚生労働省 保険局 医療介護連携政策課 保険システム高度化推進室の赤羽根 直樹室長をお迎えし、「ナショナルデータベースの現状と今後の展開について」と題して、ご講演頂きました。

参加者の会員の皆様方は、部会報告から特別講演終了迄、メモをとりながら熱心に拝聴されました。今年度も有意義な業務報告会の開催に向けて、企画・検討していきます。

◆開催日：平成28年2月9日（木）14：00～17：00 ◆場所：JAHIS第1～4会議室

## プログラム（報告概要）

### 【部会業務報告】

1. 医事コンピュータ部会の活動状況			
部会長挨拶	部会長	小宮 宏之	14：00～14：20
2. 平成30年度診療報酬改定へ向けた課題について			
医科システム委員会	委員長	野村 英行	14：20～14：30
3. 歯科電子レセプト請求の現況と標準化活動			
歯科システム委員会	委員長	西田 潔	14：30～14：40
4. 「電子版お薬手帳」について			
調剤システム委員会	委員長	竹中 裕三	14：40～14：50
5. 平成30年度介護保険制度改正の方向性について			
介護システム委員会	委員長	畠山 仁	14：50～15：00
6. 傷病名のICD-10（2013年版）への移行について			
マスタ委員会	委員長	大西 仁	15：00～15：10
7. 電子レセプトの活用について			
電子レセプト委員会	委員長	西口 妙子	15：10～15：20
8. DPC制度の現状と今後の課題			
DPC委員会	副委員長	寺岡 達也	15：20～15：30
9. オランダにおける医療保険制度・医療IT化視察調査報告			
海外視察調査報告	副部会長	高橋 弘明	15：30～15：50
10. 【特別講演】 ナショナルデータベースの現状と今後の展開について			
厚生労働省 保険局 医療介護連携政策課 保険システム高度化推進室	室長	赤羽根 直樹	16：00～17：00

◆ 報告会模様



司会の佐藤副会長



会場風景



小宮 部会長



野村 医科システム委員長



西田 歯科システム委員長



竹中 調剤システム委員長



畠山 介護システム委員長



大西 マスタ委員長



西口 電子レセプト委員長



寺岡 D P C副委員長



高橋 副部会長



赤羽根 室長



会場風景



特別講演 質疑応答

# 平成28年度 医療システム部会業務報告会 開催される

医療システム部会各委員会における今年度の事業活動内容と次年度の事業計画等を報告する医療システム部会業務報告会が、平成29年2月3日（金）JAHIS会議室にて87名の参加を得て盛大裡に開催されました。

今年度の特別講演は、経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課長の江崎禎英様より「健康・医療情報を活用した行動変容の促進に向けて」のテーマでご講演いただき、参加者の関心も高く、予定時間を超えての質疑応答が行われました。

以下に、当日のプログラムと発表模様を紹介します。

日時：平成29年2月3日（金） 14:00～17:05

場所：JAHIS 第1～第4会議室

司会進行： 運営幹事 岸本 芳典

## 【プログラム】

- |              |      |                                 |
|--------------|------|---------------------------------|
| 1. 部会長挨拶     | 部会長  | 藤岡 宏一郎                          |
| 2. 部会全体活動報告  | 副部会長 | 菅原 嘉伸                           |
| 3. 電子カルテ委員会  | 委員長  | 並川 寛和                           |
| 4. 検査システム委員会 | 委員長  | 藤咲 喜丈                           |
| 5. 部門システム委員会 | 委員長  | 大串 英明                           |
| 6. セキュリティ委員会 | 委員長  | 茗原 秀幸                           |
| 7. 相互運用性委員会  | 委員長  | 木村 雅彦                           |
| 8. 特別講演      |      |                                 |
|              |      | 「健康・医療情報を活用した行動変容の促進に向けて」       |
|              |      | 経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課 課長 江崎 禎英 様 |
| 9. 閉会挨拶      | 副部会長 | 白鳥 栄治                           |

## トピックス



岸本運営幹事



菅原副部長



並川委員長



藤咲委員長



大串委員長



茗原委員長



木村委員長



経済産業省商務情報政策局  
ヘルスケア産業課長  
江崎禎英様



白鳥副部長



質疑応答



会場風景



会場風景

# 平成28年度 保健福祉システム部会 業務報告会開催

84名の参加者を迎え、平成28年度保健福祉システム部会の業務報告会を開催致しました。

部会長による今年度の部会活動内容の報告の後、地域システム委員会、健康支援システム委員会、福祉システム委員会の各委員長からトピックスを織り交ぜながら今年度の委員会活動内容について報告を行いました。

また特別講演として、厚生労働省 政策統括官付情報化担当参事官室 政策企画官 橋本敬史様より「保健医療分野におけるICT活用推進について」と題して、保健医療分野におけるICT活用推進懇談会提言内容を含め、厚生労働省の医療ICTに関する取組についてご講演頂きました。参加者は最近の最もホットな話題だけに熱心に聞き入っており、最後の質疑応答の時間帯には活発に質問を行っていました。

プログラムは以下の通りです。

## ●平成28年度保健福祉システム部会業務報告会プログラム

日 時：平成29年2月15日（水）14：00～17：30

場 所：JAHIS 会議室

### 【業務報告会】

司会進行	運営幹事	松谷 正俊
1. 部会長挨拶	部会長	富田 茂
「部会概況報告」		
2. 健康支援システム委員会	委員長	鹿妻 洋之
「特定健診・特定保健指導 第三期に向けた変更点について」		
3. 地域医療システム委員会	委員長	森田 嘉昭
「地域医療ネットワークの標準化対応と環境の変化について」		
4. 福祉システム委員会	委員長	金本 昭彦
「介護・福祉・国保の制度改正について」		

### 【特別講演】

「保健医療分野におけるICT活用推進について」

厚生労働省 政策統括官付情報化担当参事官室

政策企画官 橋本 敬史 様

★業務報告会発表資料はJAHIS ホームページよりダウンロード出来ます。

[https://www.jahis.jp/action/id=53?contents\\_type=20](https://www.jahis.jp/action/id=53?contents_type=20)

【業務報告会の様子】



特別講演 橋本 敬史 様



会場の様子



富田茂 部会長



鹿妻洋之 委員長



森田嘉昭 委員長



金本昭彦 委員長



松谷 正俊 運営幹事



会場の様子

# 平成28年度標準化推進部会 業務報告会開催される

平成29年3月3日（金）14時からJAHISに於いて、平成28年度標準化推進部会業務報告会を62名の参加を得て開催致しました。

八木運営幹事の司会進行で、大沢部会長による開会挨拶のあと、安藤副部会長の全体活動紹介、国内標準化委員会、国際標準化委員会、普及推進委員会、安全性・品質企画委員会の各委員長から平成28年度の活動状況、国内外の動向・トピックスについての報告がありました。

特別講演として、一般財団法人 医療情報システム開発センター理事長・自治医科大学客員教授の山本隆一先生より「医療等ID、改正個人情報保護法を含む医療ICT施策の動向」と題してご講演頂き、番号制度の概略、個人情報保護法改正案と課題、医療分野での番号制度の活用、各国のPersonal Health Recordsについて分かり易くご解説頂きました。参加者は全員非常に興味深く拝聴し、予定の時間を超過して質疑応答を終了しました。

最後に留奥副部長から閉会挨拶を行い盛会のうちに報告会を終了致しました。

なお、報告会に関する情報は、JAHISホームページの [活動と報告 > 業務報告会 > 標準化推進部会](#) に掲示されていますのでご覧下さい。

## ■プログラム

司会進行	八木 春行	運営幹事
1. 標準化推進部会部会長挨拶	大沢 博之	部会長
2. 標準化推進部会全体活動紹介	安藤 慶祥	副部会長
3. 医療情報標準化を取りまく動向について	佐々木 文夫	国内標準化委員長
4. 国際標準化活動について	岡田 真一	国際標準化委員長
5. 標準化の普及活動について	岩津 聖二	普及推進委員長
6. 患者安全に関する国際・国内動向について	岡田 真一	安全性・品質企画委員長
7. 【特別講演】 「医療等ID、改正個人情報保護法を含む 医療ICT施策の動向」	山本 隆一 様	一般財団法人 医療情報システム開発 センター 理事長 自治医科大学客員教授
8. 閉会挨拶	留奥 修	副部会長



特別講演  
山本 隆一 先生



大沢 部会長



八木 運営幹事



安藤 副部会長



佐々木 国内標準化委員長



岡田 国際標準化委員長  
安全性・品質企画委員長



岩津 普及推進委員長



留奥 副部会長



会場風景

# HL7セミナー開催

JAHISが団体会員Aである日本HL7協会主催のHL7セミナーが開催されましたので、紹介いたします。詳細な内容、および、一部の発表資料は、次のURLにありますのでご覧ください。

日本HL7協会HP <http://www.hl7.jp/>

なお、JAHIS会員各社は日本HL7協会の事業法人会員と同等の権利を有しておりますので、日本HL7協会主催のセミナーに会員価格（無料）で参加できます。

第59回HL7セミナー 於 パシフィコ横浜会議センター 平成28年11月21日（月）13:00～14:30

テーマ：「HL7実装事例紹介 Ⅲ」

1. HL7入門 SS-MIXストレージ 電子情報連携加算算定基準  
日本HL7協会会長 浜松医科大学教授 木村 通男 先生
2. 医療・ヘルスケア関連システムにおけるHL7標準の実装状況  
アイテック阪急阪神株式会社 津田 裕史 先生
3. 医療情報システムにおけるHL7標準の実装状況  
株式会社SBS情報システム 寺本 稔 先生
4. 医療情報システムにおけるHL7標準の実装状況  
株式会社ソフトウェアサービス 藤木 俊樹 先生

第60回HL7セミナー 於 JAHIS会議室 平成29年3月8日（水）13:30～15:30

テーマ：「HL7 FHIR」のご紹介

1. 「HL7の活動状況」のご紹介  
日本HL7協会会長 浜松医科大学教授 木村 通男 先生
2. 「FHIR」のご紹介  
日本HL7協会情報教育委員会委員長 株式会社メディック総研 高坂 定 先生
3. 「FHIRの技術概要」のご紹介  
日本HL7協会運営会議議長 日本光電工業株式会社 平井 正明 先生

# 日本薬剤師会 学術大会 (2016/10)

事業推進部 日薬展示委員会



委員長  
(パナソニックヘルスケア株式会社)

**田代 哲也**

Tashiro Tetsuya



副委員長  
(株式会社ユニケソフトウェアリサーチ)

**亀田 裕文**

Kameda Hirofumi



副委員長  
(三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社)

**宮島 毅**

Miyajima Tsuyoshi

日薬展示委員会では、毎年秋の連休の2日間、開催地を変えて開催される「日本薬剤師会学術大会」(主催：公益社団法人日本薬剤師会、開催地の都道府県薬剤師会)の併設展示・OA機器コーナーの出展取りまとめ、小間割り～出展社説明会～小間設営～大会当日運営管理、集客活動等を行っております。

日本薬剤師会学術大会は、1968年(昭和43年)の第1回東京大会(日本薬剤師会創立75周年式典)に始まり、保険調剤はもとより、在宅医療、介護、地域医療など薬剤師が携わる業務の学術的な発表を行う場として開催されています。全国から多数の薬剤師が一同に参集する業界最大規模の学術大会で、2016年で第49回を迎えました。来場者数は、近年では7,000人前後以上の規模で推移。それとともに、薬局向けシステムメーカーにとっては年間最大規模の製品展示、新製品発表の機会となっています。

昨年度は、第49回日本薬剤師会学術大会・愛知大会として、「プロフェッションを追求する ～ Best and beyond～」と題し、2016年10月9日(日)～10日(祝)に愛知県名古屋市で開催されました。今回の最終登録者数は約10,000人となり、昨年(約7,000人)を大きく上回ることができました。学術大会会場は、名古屋国際会議場と隣に位置する名古屋学院大学・名古屋キャンパス白鳥学舎に集約。近年は会場が複数に分散しバスでの移動となる傾向が強いのですが、今回は大会会場間の移動が至便。OA機器展示会場も名古屋国際会議場内のイベントホールであり、多くの登録者に来場頂くことができました。OA機器展示には21社が出展、電子薬歴システムをはじめ、在宅支援関連システム、チェーン薬局向けシステム、電子お薬手帳などの最新システムを展示、各社ブースは熱心に説明を受ける来場者で賑わいを見せ、薬局のIT化への強い関心を感じさせました。

そして今年度は50回目という節目の年で、東京大会は第30回以来20年ぶりの開催。第50回日本薬剤師会学術大会・東京大会として、「Pharmacists Practicing with Pride ～新たな時代に向けて、さらなる飛躍～」をメインテーマに、2017年10月8日(日)～9日(月・祝)に東京都千代田区で開催されます。大会会場は、JR有楽町駅に隣接する東京国際フォーラムと、隣のJR東京駅に隣接するJPタワーホール&カンファレンスの2会場に集約され、IT機器展示(第50回大会よりIT機器展示に名称変更)は東京国際フォーラム内と伺っております。東京～有楽町という首都東京のまさに中心部に位置する会場立地は、全国からの交通の便(羽田空港、東京駅発着の新幹線・在来線、各方面から

の高速道路など)や宿泊施設、銀座などの繁華街も近く、抜群の環境にあります。それにまして50回目の記念大会ということで例年以上の多くの来場者が見込まれ、東京都薬剤師会は万全の態勢で臨むべく、着々と準備を進められている様子です。今回も例年通り、JAHISがIT機器展示コーナー全体の運営を請け負うべく、すでに東京都薬剤師会会長や開催事務局の皆様と早々に接触を開始しております。例年以上に出展企業各社の皆様にご満足頂ける成果を出すべく取り組んでまいり所存ですので、今年度も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

以下に、第50回日本薬剤師会学術大会・東京大会の概要を記します。

#### ◆第50回日本薬剤師会学術大会・東京大会

- 1) 開催期間：2017年（平成29年）10月8日（日）～9日（月・祝）
- 2) 開催場所：東京国際フォーラム、JPタワー ホール&カンファレンス
- 3) メインテーマ：「Pharmacists Practicing with Pride  
～新たな時代に向けて、さらなる飛躍～」



また、2018年以降の日本薬剤師会学術大会もすでに決定していますので、下記に記します。

#### ■第51回日本薬剤師会学術大会

会 期：2018年（平成30年）9月23日（日・祝）～24日（月・振休）  
開催地：石川県金沢市

#### ■第52回日本薬剤師会学術大会

会 期：2019年（平成31年）10月13日（日）～14日（月・祝）  
開催地：山口県下関市

# 運営部より

調査委員会 委員長  
(東芝メディカルシステムズ(株))

**武田 芳郎** Takeda Yoshiro

## 1. 概要

2016年6月に竹腰委員長より引継ぎ調査委員会 委員長になりました、東芝メディカルシステムズの武田と申します。調査委員会には2005年からの参加で、古参になってしまいました。

調査委員会は、JAHIS会員会社や部会等の協力を得ながら、コンプライアンスに留意し、既存調査の実施や新たな調査の検討を行っています。

既存調査には、

- ①「売上高調査」
- ②「市場規模予測調査」
- ③「導入調査」

があります。

新たな調査について、現時点では確定しているものではありませんが、今後各部会や委員会からの要望が発生したタイミングで検討を進めていく予定です。

## 2. 売上高調査

売上高調査は、JAHISの定款に定められた「工業統計の整備」事業の一環として、市場状況を把握することを目的に、1994年の創立以来実施しています。JAHIS会員の協力のもと半期毎のデータを年間で集計しています。

H28年度上期分調査は、2016年10月～2017年1月に実施いたしました。今回の調査では、会員企業の91%の341社に回答いただきました。その結果、売上高3,327億円、直接売上高2,525億円を集計しました。

なお、詳細につきましては、JAHISアーカイブの「売上高調査」をご参照下さい。

## 3. 市場規模予測調査

市場規模予測調査は、保健医療福祉分野における適正なITのあり方について、国民や行政機関から深い理解を得るだけでなく、会員企業のビジネス戦略策定にも資することを目的とし、2009年以降調査を実施しています。調査結果は、2009年度版（2009/9発行）、2011年度版（2011/11発行）、2014年度版（2015/1発行）を発行しています。現在、2017年度版を発行すべく、準備を開始した

ところです。

各部会におきましては、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、詳細につきましては、JAHISアーカイブの「市場規模予測」をご参照下さい。

#### 4. 導入調査

「導入調査」は、国内のオーダーリング・電子カルテシステムの病院への導入状況把握を目的とし、「月刊新医療」により1994年から実施されており、JAHISは2004年より調査協力をしています。

昨年度は、JAHIS会員の協力のもと「月刊新医療」による導入調査が2016年4月に実施され、その結果は「月刊新医療」2016年7月号～11月号及び、月刊新医療データブック・シリーズ「医療機器システム白書2017」（2016年10月発刊）に掲載されました。集計情報は、データ収集にご協力いただいたJAHIS会員各社にフィードバックされています。

調査委員会では、「月刊新医療」の導入調査データ等をもとに、JAHISが独自に2016年4月時点における国内のオーダーリング・電子カルテシステムの病院への導入状況について分析及び整理を行い、「オーダーリング・電子カルテシステム病院導入状況調査報告書〔2016年（H28年）調査版〕－JAHIS医療情報システム導入調査結果－」を発行しました。



詳細につきましては、JAHISアーカイブの「導入調査」をご参照下さい。

#### 5. 委員会メンバー（2017年3月現在）

委員長： 武田 芳郎（東芝メディカルシステムズ）

副委員長：岩村 浩正（富士通）

委員： 犬飼 哲一（NTTデータ）

加治木 孝一（日本電気）

谷 陽平（日立製作所）

得能 稔（パナソニック ヘルスケア）

長谷川 稔洋（富士通）

戦略企画部長：森本 正幸（富士通）  
運営幹事： 高橋 俊哉（富士通）  
            岸本 芳典（日立製作所）  
            小林 俊夫（日本アイ・ビー・エム）  
            八木 春行（東芝メディカルシステムズ）  
事務局： 中村 斉（JAHIS）

以上の各業務は、JAHIS会員各社の皆さまのご協力により成り立っています。ご協力に対しまして改めてお礼を申し上げますとともに、今後のご協力を是非ともよろしく願いたします。

また、新しい調査等のご要望がありましたら、調査委員会までご一報下さい。

# 会員管理システムのリニューアル

総務会  
ホームページ改修検討WG

## 1. はじめに

JAHISでは2015年に策定したITの中期リニューアル計画に基づき、計画的に情報システムを更新しています。会誌59号でご報告させていただきましたが、2016年4月および6月にはJAHISホームページの全面リニューアルを実施しました。それに引き続き、各種ITシステムの改修を進めてきましたが、その一環として会員管理システムの改修を2016年12月にリリースしました。これによりJAHISへメンバー登録している方が、ご自身の登録情報の照会・変更申請をWebから実施する事が可能になりました。この場をお借りして、その概要の紹介と利用促進のお願いをさせていただきます。

## 2. 会員登録情報の変更申請がWebから可能に

2016年12月1日にリリースした会員情報登録システムのWeb化により以下の事が可能になりました。

- ・会員個人（登録されているメンバー）
  - (1) 登録メンバー本人による登録情報の参照・変更申請
  - (2) 登録メンバー本人による登録情報の削除申請
  - (3) 登録メンバー本人によるパスワードの変更
- ・会員代表者・会員連絡窓口
  - (1) 自社メンバー全員の登録情報の参照・変更申請
  - (2) 自社メンバーの登録情報の削除申請
  - (3) 会員代表者・会員連絡窓口の変更申請
  - (4) 自社メンバーの名簿表示・印刷

これらの機能により、JAHISへメンバー登録されているご本人は、所属・連絡先等の属性情報の変更申請、委員会・WG等の登録情報の変更申請がWebから可能となりました。ご自身のメンバー登録情報の削除もWebから申請可能です。また、パスワードの変更も可能となっております。

会員連絡窓口および会員代表者（メールアドレスを登録されている方に限ります）は、会員個人向け機能に加えて、自社メンバー全員の登録情報の参照・変更申請・削除申請が可能となっております。また、会員代表者および会員連絡窓口を変更する申請も可能となっております。

### 3. システム利用のイメージ

Web申請の機能を利用するには、JAHISホームページ「会員向けページ」の「ID / PASSページ」からログインしていただきます。ID・パスワードはJAHISへ新規メンバー登録された際に各個人へ配布されます。また、以前からメンバー登録されていた方には、一括して2016年3月22日に配布済みです。



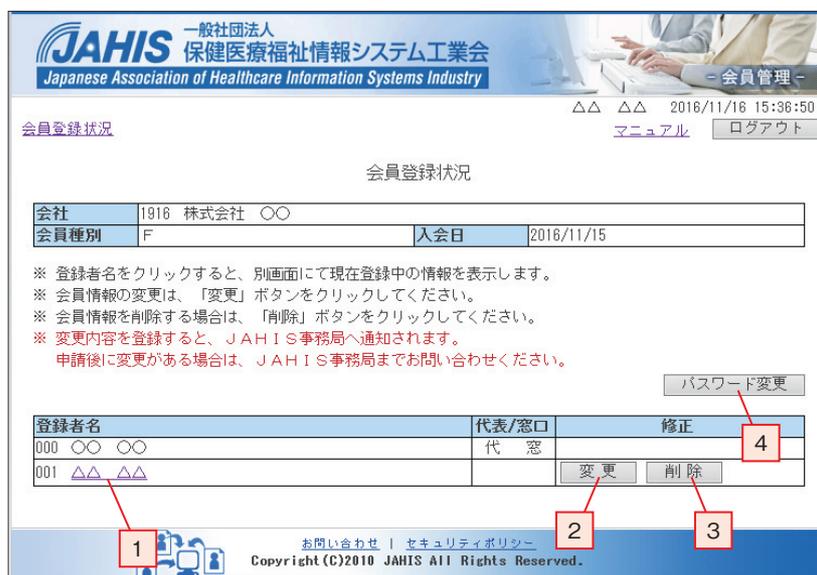
図1. JAHISホームページ Top



図2. ログイン画面



ログインすると上記のようなホーム画面に遷移しますので、「会員情報管理」のアイコンをクリックしてください。会員管理システムへ自動ログインし、別ウィンドウで以下のような初期画面（登録状況画面）が表示されます。



会員個人の初期画面では以下の機能がご利用いただけます。

1. 登録者の氏名をクリックすると、現在登録中の情報を表示します。
2. 登録内容の変更を申請する場合は、「変更」ボタンをクリックします。
3. 登録者の削除を申請する場合は、「削除」ボタンをクリックします。
4. パスワードを変更する場合は、「パスワード変更」ボタンをクリックします。

代表者・連絡窓口の初期画面には、会員個人向けの画面に加えて以下の機能が配置されていますので、必要に応じてご利用ください。

1. 代表者・窓口変更を行う場合の「代表者・窓口変更」機能
2. 登録者名簿を見る場合の「登録者名簿」機能

ページの右上部には「マニュアル」へのリンクがありますので、ご利用にあたり参照してください。

#### 4. 運用の変更

今後はメンバー登録情報の更新につきまして以下のような運用となりますので、会員の皆様のご理解・ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

表1. 会員登録情報の更新に関する運用

従来の運用	今後の運用
会員登録情報の変更の都度、様式Bに必要事項を記入してFAXまたはeメールでJAHIS事務局に送付して申請する	会員登録情報の変更は要件発生の都度、本人または会員連絡窓口・会員代表者がWebにて変更を申請する（様式Bによる変更申請も引き続き受け付けます）
4月にJAHIS事務局より会員の登録情報一覧を印刷して、会員連絡窓口へ郵送して見直しを依頼する	4月に全員メールにて本人にご自身の会員情報の最新化を依頼する（現行の郵送による窓口への依頼は廃止） 全員メールでエラーになったメールアドレスについては、JAHIS事務局が会員連絡窓口へ連絡して修正または削除を行う

#### 5. おわりに

JAHISでは従来より委員会等へ参加するメンバーの新規登録申請をWebにて受け付けておりました。この度のシステム改修に伴う既登録メンバーの変更申請・削除申請と併せて、Webによる申請機能を有効に御活用くださいますようお願いいたします。今後もホームページ改修検討WGが中心となって、引き続きITリニューアルを進めていきますので、会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

# 特定健診・特定保健指導の 第三期見直しの検討状況について

保健福祉システム部会  
健康支援システム委員会 委員長  
(オムロンヘルスケア株式会社)

**鹿妻 洋之** Kazuma Hiroyuki



## 1. これまでの振り返り

平成20年にスタートした特定健康診査・特定保健指導も、開始からすでに8年が経過し、数々の知見が得られるとともに、問題点も明らかになってきました。この期間の実績を振り返ってみると、特定健診においては平成20年度時点の受診者は2,000万人だったものが、平成26年度時点では約2,600万人に達し、実施率は全保険者平均で約50%となっています。一方、特定保健指導の全保険者平均の実施率は18%にとどまっており、特に、健保組合・共済組合の3割は実施率が5%未満となっているなど、課題が集中しています。

国では、報告された大規模データをNDBとして集約し、国全体での受診者の状態の把握や、特定保健指導の効果の検証が可能となりました。ワーキングによる効果検証では、検査値の改善効果や医療費適正化の効果が明らかになり、平成26年度から、特定健診とレセプトのデータ等を活用して、保険者ごとの健康課題に応じた保健事業の策定や実施内容の評価を行う「データヘルス事業」が始まっています。さらに、保険者努力支援制度等のインセンティブを活用した、保険者機能強化の後押しの動きも出てきています。

平成30年からは、第三期にいよいよ突入しますが、今回の変更は一言でいうと、特定健診・特定保健指導を着実に実施し、保険者全体の更なる実施率の向上を達成するという観点が一番重視されたものとなっています。

JAHISも「実務担当者による特定健診・特定保健指導に関するワーキンググループ」に2名委員を派遣しシステム構築及び運用の観点から問題点の分析を行うとともに、その下部に設置された作業班での議論を通じて、改修仕様の明確化に参画してきました。本稿では本年12～2月に開催されたワーキング・作業班での議論を中心に、システム改修に関連する重点ポイントを解説します。

## 2. 特定健診・特定保健指導共通の変更点

個人を識別する番号としては、保険者番号、被保険者記号・番号に加え、保険者から国への報告様式には健診情報整理番号が設けられていました。現在3つまで使用されていますが、将来的な活用も想定し、今回その数が5個まで拡張されました。将来、レセプトや他制度のデータとの突合が容易となることが期待できます。

### 3. 特定健診の変更点

#### 1) 基本的な項目等

特定健診では腹囲基準が重要な位置づけを占めます。第一期第二期を通して現行の腹囲基準（男性85cm以上、女性90cm以上）を見直すべきかの議論が行われましたが、最終的に現状維持となりました。ただし、腹囲が基準未満の場合でも、リスク要因（血圧高値、脂質異常、血糖高値）がある方への対応方法は重要課題と認識されましたので、第三期期間中も引き続き検討が行われます。

基本的な健診項目では、以下の2つが変更となりました。

- 血中脂質検査

LDLコレステロールに代わり、non-HDLコレステロールを用いて評価した場合でも、検査を行ったとみなされることになりました。ただし、中性脂肪が400mg/dl以上であったり、食後採血であった場合等に限定されたものになります。

- 血糖検査

随時血糖が新たに検査項目に位置づけられました。ただし利用には制限があり、空腹時以外においてヘモグロビンA1cを測定しない場合に制限されます。これに伴い、食後時間の問診結果コードが、3.5時間未満、3.5時間以上10時間未満、10時間以上の3区分となり、随時血糖は3.5時間以上10時間未満の場合のみ認められることとなりました。

#### 2) 詳細な健診項目

詳細な健診項目では、糖尿病性腎症に対する重症化予防の取り組みを保険者として推進させる観点から、血清クレアチニン検査が項目追加となり、従来の貧血検査、心電図・眼底検査と併せて4種類となりました。

共通の注意事項として、健診項目の中には、詳細な検診とは別に個別契約に基づき広く実施されているものもあることから、詳細な健診項目として実施したことを示すフラグとして、心電図（対象者）、眼底検査（対象者）、血清クレアチニン検査（対象者）という項目が新たに設けられました。また、前年度の健診結果に基づいて必要性が判定されていた部分も、当該年度の健診結果に基づいて判定を行えることとなりました。

これ以外の留意点としては、眼底検査結果に新たにWong-Mitchell分類、改変Davis分類の2分類が加わったこと、血清クレアチニン検査では、eGFRの出力が求められること等があります。詳細な検診とは関係ありませんが、尿中アルブミン量や子宮頸がん細胞診のベセスダ分類コードの変更等の修正も行われています。

#### 3) 標準的な質問票

全体の質問数は22項目で変化はありませんが、口腔機能を評価する項目が加えられ、間食関連質問の回答コードが変更になる等、注意すべき変更点が2か所あります。それ以外については、質問文の表記微修正なので、大きな影響は出ないと思われれます。

#### 4) その他の修正点

健診項目の変更以外でも2点、注意すべきことがあります。

##### (1) 健診当日に初回面談を行った場合のフラグ記載

今回の変更で健診当日に保健指導を行えるようにすることを集合契約で対応可能とすることに決まりました。保険者がそれに対応する受診券を発行するわけですが、受診者が必ずしも保健指導を同日実施できる機関に行くとも限らず、都合により受けられない場合も考えられます。この場合、保険者は、必要に応じて保健指導のための利用券を発行することが求められます。

このため、保健指導を同日実施した受診者については、健診情報ファイルの中に検査項目の並びで、フラグ項目として「初回面接」が設けられ、面談実施時に出現させることになりました。

##### (2) 情報提供の実施状況報告項目の追加

特定健診の結果を本人に分かりやすく伝えることは、健康課題を認識させるうえで重要です。このため、保険者向けインセンティブ制度の共通指標にも位置づけられました。

このため、保険者から国に報告する際に、検査項目の並びで、「情報提供の方法」が追加されています。付加価値の高い情報提供、専門職による対面説明、その両方の3パターンが記載可能となっていますが、それ以外のコードは認められておりません。

#### 4. 特定保健指導の変更点

先に述べたように低い状態にある特定保健指導の実施率を向上する観点と、現行のデータ仕様における情報量不足等を解消する観点から、非常に大きな仕様変更が行われました。

保健指導全般の変更点としては、次の4項目があります。実施率の改善に対しては影響の少ない項目です。

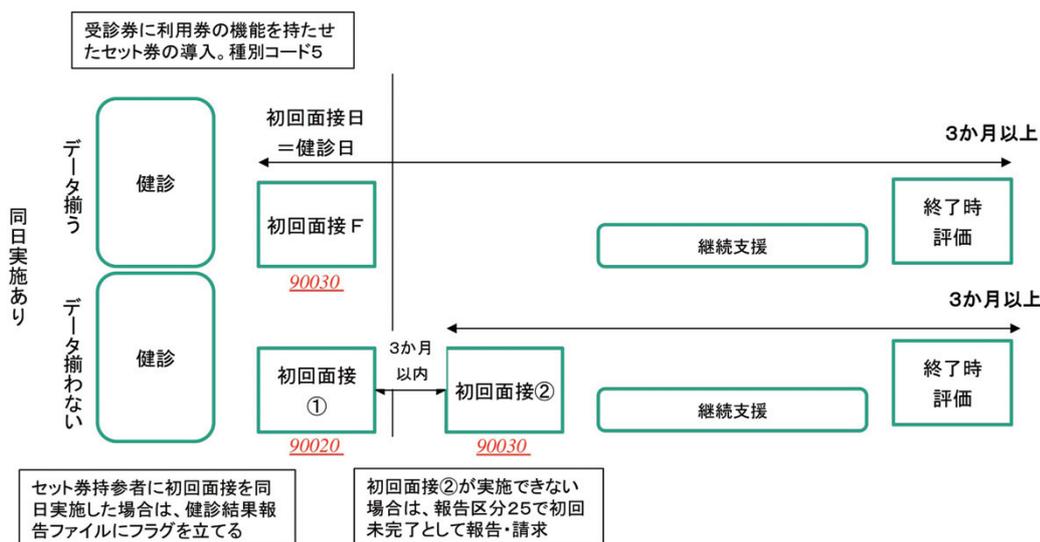
- 初回面接から6か月経過後に行われていた最終評価を、3か月経過後に実施可としたこと（現状通り、6か月後に実施することも可能）
- 面接・支援・評価の申し送り事項を記載するため、対応する各セクションに対して256文字分のテキストフィールドが設けられたこと
- 事前届け出は不要となった初回面接の遠隔実施を把握するため、支援形態に遠隔面接が追加されたこと
- 複数実施機関での保健指導に対応するため、委託した場合にのみ出現していた「委託先情報セクション」の名称を変更し、保険者直営事業の場合においても出現が必要になったこと。この際、現在の「実施形態」に加え、担当部分を示す「実施内容」を加えたこと

問題となるのは、保健指導の利用率や実施率のカウントに直接影響を与える2つの運用ルール変更であり、この影響も含め広範囲にわたっています。

### 1) 健診受診日の特定保健指導実施に対する対応

健診当日は、受診者の意識も高くなり、保健指導に対する参加意欲も向上していることが期待されます。このため、これまで保険者直営事業でのみ認められていた健診受診日の保健指導について、集合契約で対応可能となるようルール整備が行われました。

- 健診受診券を一部工夫し保健指導利用券の性格を併せ持つ「セット券」として使用すること。
- 健診当日に検査結果が揃わない場合に、初回面接の分割実施を認め、それぞれ初回面接①、初回面接②と定め、初回面接①と②の間は、3か月を超えないとすること。初回面接①については、新たにセクションコード90020を用いて記載すること。
- 実績評価（3か月後評価）の起算日は、初回面接が分割実施された場合、初回面接②の日付とすること。
- 資格喪失等により初回面接①のみしか実施できなかった場合を考え、報告時点コードに「初回未完了」を加えるとともに、報告区分「25」を新たに設けること。



### 健診実施日の保健指導実施にともなう変更点

### 2) 積極的支援レベル該当者におけるコースの複線化

積極的支援が終了したとみなされるには、180ポイント以上の継続的支援を実施する必要があります。利用者から見ると、この支援に対する負担感も高く、初回面接は参加したものの、継続的支援実施の途中で脱落してしまうケースが多々見受けられました。また、この180ポイントという基準が妥当かという検討も進んでいない状況にあります。これらを踏まえ、積極的支援レベルに該当したものについて、新たに二つの介入コースが認められることになりました。

#### (1) 2年目の特定保健指導の弾力化

2年連続して積極的支援に該当した方で、前年も積極的支援に該当して積極的支援保健指導を終了しており、前年度よりも当該年度の健診結果が一定程度改善している場合

は、動機付け支援相当の保健指導（初回面接と実績最終評価）で終了した場合でも、特定保健指導を実施したとみなせることになりました。これを識別するため様式中の「支援レベル」を「保健指導区分」と改め、識別コードを設定するとともに、利用券の種別にも「動機付け支援相当」が加わるようになります。

ただし、動機付け支援相当と判定するためには、前年の保健指導実施状況と健診結果が必要となるため、健診当日に初回面接を実施する集合契約では実施が難しく、個別契約が必要になる等対応の工夫が求められます。

## （2）柔軟な運用による特定保健指導のモデル実施

継続的な支援におけるポイントの在り方や、生活習慣の改善効果を得るための目安となる新たな指標等を検証するため、別途実施計画を提出することにより、積極的支援に該当した方に対して、従来の基準によらない保健指導が可能となりました。「保健指導区分」に「モデル実施」を入力することで、対象者の識別が行われます。

継続的支援が180ポイントに満たなくても改善効果が認められれば問題ありませんが、実績評価時点で当該年度の健診結果より、腹囲・体重の値が一定程度減少していることが求められるため、評価時点で改善していない場合は、従来の積極的支援同様に180ポイント以上まで継続的支援を実施するケースが多くを占めることが予想されます。

これら2つを集計上識別するため、集計情報ファイルに該当する集計項目が設けられました。

## 5. まとめ

頁数の関係で細部に触れることはできませんでしたが、特に保健指導側でのシステム改修は大幅なものになりました。本稿執筆時点では、各種通知や仕様書の公開は行われていません、正式な公開は五月の連休明けとなることが予想されます。会員企業の皆様には、委員会等を通じて先行して情報提供を進めさせていただきますので、各種の案内にはご注意くださいようお願いいたします。各団体が開催予定の仕様説明会についても、日程が判明し次第ご案内いたします。

また、今回の特定保健指導積極的支援への対応部分は、保健指導事業者から見ると単価を引き下げる方向に作用することが予想されます。業務システムとしての効率改善に対する要求も一層高まってまいりますが、一方で柔軟性を持った提案も可能となる機会でもあります。ITシステムを活用したアウトカム重視型介入支援ツールが求められてまいりますので、チャレンジできる事業機会の到来ととらえて、今回のシステム改修にトライいただければと思います。

## 教育事業のご紹介

教育事業委員会  
委員長  
(株)NTTデータ

**三田村 一治** Mitamura Kazuharu



JAHIS会員の皆様には、平素より事業推進部教育事業の運営に大変ご協力いただき厚くお礼申し上げます。事業推進部教育事業委員会の委員長を務めておりますNTTデータの三田村と申します。

### 1. 昨年度の活動状況

昨年度の教育事業について説明させていただきます。昨年度は以下の5コースを開催いたしました。

- ・医療情報システム入門コース（第1回）  
開催日：6/9、6/10 定員：60名 受講者：50名
- ・電子カルテシステム導入研修  
開催日：6/17 定員：40名 受講生：24名
- ・医療情報システム入門コース（第2回）  
開催日：7/21、7/22 定員：60名 受講生：50名
- ・介護請求システム入門コース  
開催日：8/24 定員：40名 受講生：31名
- ・医療情報システム入門コース（1日集中）  
開催日：10/21 定員：40名 受講生：49名

一昨年度は、医事会計システム入門医科コース、歯科コース、調剤コースを以前から長年に渡って継続実施して参りましたが、昨年度は、受講生のニーズを反映させ、一区切りつけることとして休止させていただきました。



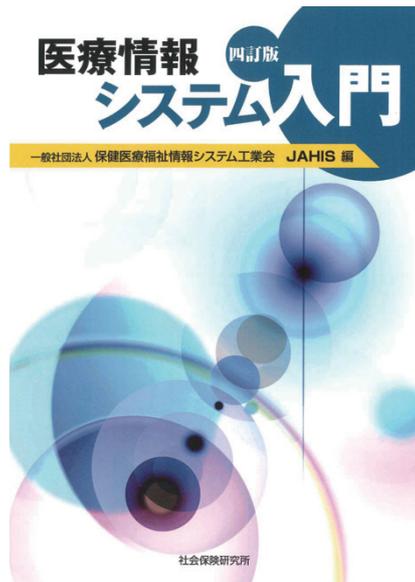
JAHIS教育コース2016のリーフレット

当5コースについては、各委員会のご協力のもと、カリキュラムの作成、リーフレットの作成、テキストの作成、講師の派遣等、準備を進めて参りました。昨年度は特に医療情報システム入門コーステキストの巻末に挿入させていただいている用語集について全面的に見直しを図りました。教育事業委員会にて各単元のテキストから受講生が必要とするであろう用語を抜き出し、各単元の委員会の方に解説文書を記載いただいております。非常に手間ではありますが、各委員会のご協力をいただいたことで何とか完成させていただき教育コースの中で活用させていただいております。当5コースともにほぼ定員並みに受講生が集まり、コース後のアンケートにても理解度、期待度及び役立ち度全てにおいて非常に好評な結果となっております。



教育コース実施中の様子

また医療情報システム入門コースのテキスト及び講義内容を執筆した『医療情報システム入門（四訂版）』を昨年度3月に発刊させていただきました。ご活用いただければと思います。



『医療情報システム入門（四訂版）』の表紙

## 2. 今年度の活動計画

今年度の教育コースについては以下の4コースの開催を予定しております。

- ・ 医療情報システム入門コース（第1回）  
開催日：6/8、6/9 定員：60名
- ・ 医療情報システム入門コース（第2回）  
開催日：7/20、7/21 定員：60名
- ・ 介護請求システム入門コース  
開催日：8/25 定員：60名
- ・ 医療情報システム入門コース（1日集中）  
開催日：10/20 定員：60名

今年度の教育コースについても準備を進めており、各委員会の方には講師の選定、テキストの見直し、用語集の見直し等、ご協力の程よろしく願いいたします。

## 3. 今年度の新たな取り組み

昨年度に実施させていただいた電子カルテ導入研修については、世の中の動向を鑑み、導入よりはデータの活用に焦点をおいたコースに変えていこうと考えています。そこで、来年度は当教育コースについては中止させていただいておりますが、上記を踏まえ、新たな取り組みを考えております。外部の講師をお招きし、会員の方々のニーズに応えられるような題材で、最近の世の中のトレンド的な動向を踏まえた勉強会の開催を計画しております。テーマとしては、医療分野における先進的なAIの活用事

例等を紹介する「先端技術の活用」、NDB等に代表される「データの活用」、医療分野に間もない方が医療従事者とのマナーやコミュニケーションを図るために「医療機関向けビジネスマナー」を考えております。JAHIS会員の方の少しでも手助けとなれば幸いです。

#### 4. 最後に

JAHIS会員の方のサービス向上のために、教育事業委員会は活動しております。教育という立場で、少しでも会員の方の役に立つ情報を提供できるように努力して参りますので今後ともご協力の程、よろしくお願いいたします。

# 運営状況報告

会誌第59号（平成28年10月発行）から本誌発行までに開催された理事会・運営会議・総務会の会議内容について審議事項を中心にご紹介いたします。JAHISの活動方針が決まる経緯をご理解いただくとともに、戦略企画部の運営幹事を始めとするメンバーが、さまざまなJAHIS活動の重責を担っている様子を読み取っていただければ幸いです。

また、併せて現時点での会員数状況をご報告いたします。

## ■ 平成28年度会員数状況(平成29年1月31日現在)

会員種別	A	B	C	D	E	F	計
H28・7・31 現在	7	3	9	23	128	203	373
入会					4	1	5
退会					-2		-2
種別変更							
H29・1・31 現在	7	3	9	23	130	204	376

## 理事会

第52回～第55回の書面理事会が開催されました。その審議結果は次のとおりです。

### 第52回書面理事会（平成28年8月10日付け）

議案： 第1号議案 入会承認の件 承認  
 (株)インターネットイニシアティブ E会員 紹介 (株)ケーアイエス

### 第53回書面理事会（平成28年9月16日付け）

議案： 第1号議案 入会承認の件 承認  
 (株)トゥモロー・ネット E会員 紹介 パナソニック ヘルスケア(株)  
 サトーヘルスケア(株) E会員 紹介 パナソニック ヘルスケア(株)

### 第54回書面理事会（平成28年11月16日付け）

議案： 第1号議案 入会承認の件 承認  
 (株)沖データ E会員 紹介 沖電気工業(株)

## 第55回書面理事会（平成28年12月14日付け）

議案： 第1号議案 副会長選定の件

承認

現副会長の辞任に伴い、定款第15条に基づき、浅野正治を副会長に選定することにつき承認を求める。

議案： 第2号議案 入会承認の件

承認

(株)エフワン

F会員 紹介 日本アイ・ビー・エム(株)

## 運営会議

### 平成28年度 第4回運営会議議事録

<日時>：平成28年7月19日（火）15:00～17:20

<場所>：JAHIS第1～第3会議室

#### （1）対外活動申請

- ① 「(一社)日本臨床検査自動化学会 第48回大会 発表①」については、9月22日～24日、パシフィコ横浜において、「臨床検査データ交換規約の実装について」を一般演題として、臨床検査データ交換規約改定作業WGの千葉リーダ、平沢委員、渡邊委員、川田委員が、投稿・発表することが承認された。
- ② 「(一社)日本臨床検査自動化学会 第48回大会 発表②」については、9月22日～24日、パシフィコ横浜において、「POCTにおける臨床検査データ交換規約の実装について」を一般演題として、POCTデータ交換標準化検討WGの三沢リーダ、弘田委員、千葉委員、渡邊委員、平沢委員、川田委員が、投稿・発表することが承認された。
- ③ 「厚生労働省事業『地域医療連携用ID（仮称）等の活用に関する調査研究業務』への協力依頼」については、地域医療システム委員会の森田委員長、安田副委員長、足立委員、伊藤委員が、(株)日立コンサルティングによるインタビューを受けることが承認された。
- ④ 「眼科レポート連携の標準化への協力依頼」については、日本眼科学会及び日本IHE協会との眼科レポート連携の標準化に向けた活動が承認された。

（2）「事務局システムの改修」については、事務局システムの機能追加（会員管理システム、事務局支援システム、Outlookスケジュール共有）を実施するための概算改修費用等が承認された。

（3）「メール審議結果」については、6/28～30に実施したメール審議の結果報告があった。

「JAMI課題研究会への委員派遣」（医療システム部会）、（結果）構成員総数42名中、出席者37名。出席者全員の賛成で承認済。

### 平成28年度 第5回運営会議議事録

<日時>：平成28年8月18日（木）15:00～17:40

<場所>：JAHIS第1～第3会議室

#### （1）対外活動申請

- ① 「第36回医療情報学連合大会 日本病院薬剤師会とJAHISの共同企画『内服薬処方せんの記

載方法の在り方に関するセッション』の共同座長選任依頼」については、11月21日～24日（期間内1回）、パシフィコ横浜において、下邨医療システム部会副会長が共同座長を務めることが承認された。

②「日本眼科学会及び日本IHE協会との眼科レポート連携の標準化への協力依頼」については、木村相互運用性委員会委員長と並川電子カルテ委員会委員長が参画することが承認された。

③「労災レセプトのオンライン化に向けた普及推進事業への参画依頼」については、依頼元の博報堂からの依頼内容の詳細確認を目的に、8月29日（月）の第1回委員会へオブザーバとして、森本戦略企画部長と医事コンピュータ部会代表の2名の出席が承認された。

(2)「事業企画推進室の体制強化」については、事業企画推進室の体制強化のため、副室長に日本電気(株)の黒野氏（10月末退職予定）をJAHIS契約社員（常勤）として雇用することが承認された。

(3)「外部アンケート対応検討結果」については、プロセスフローの記載文書の位置修正と、申請書の修正を行い、タスクフォース案が承認された。

### 平成28年度 第6回運営会議議事録

<日時>：平成28年9月20日（火）15:00～17:40

<場所>：JAHIS第1～第3会議室

#### (1) 対外活動申請

①「労災レセプトのオンライン化に向けた『普及促進事業』の普及促進活動検証委員会委員の派遣依頼」については、森本戦略企画部長と岸医事コンピュータ部会事務局部長を派遣することが承認された。

②「(学)岩崎学園 横浜医療情報専門学校 教育課程編成委員会 外部委員の派遣依頼」については、真野事業推進部運営幹事を派遣することが承認された。

③「医療情報学連合大会 三菱電機展示ルームセミナーの講演依頼」については、11月23日（水）11:00～12:00、パシフィコ横浜会議センター4F413会議室において、「医療情報連携ネットワークにおける標準化について」と題し、吉村事業企画推進室長が講演することが承認された。

④「日本輸血・細胞治療学会マスタ標準化作業部会への参加依頼」については、電子カルテ委員会の並川委員長、高山委員、北村委員、天満委員、大林委員、中根委員、山崎委員、大野委員、本多委員、新垣委員が参加することが承認された。

⑤「第36回医療情報学連合大会共同企画への参加依頼」については、11月23日（水）13:15～15:15、パシフィコ横浜会議センターF会場501において、「電子パス標準化の方向性」の講演とパネルディスカッションに井川電子カルテ委員会委員が参加することが承認された。

⑥「電子署名研究会『経産省事業 平成28年度サイバーセキュリティ経済基盤構築事業』への委員派遣依頼」については、茗原セキュリティ委員会委員長を派遣することが承認された。

⑦「国民健康保険中央会 障害者総合支援事務処理システム検討会への委員派遣依頼」については、福祉システム委員会の金本委員長、茶珍委員、林委員、村上委員、鴻谷委員、吉田委員、山下委員、中山委員を派遣することが承認された。

- (2) 「厚生労働省事業『医療等分野におけるネットワークの相互接続の実現に向けた調査研究業務』への応募」については、入札することが承認された。
- (3) 「会議室設置プロジェクターの交換」については、4台全てを新機種へ更新することが承認された。
- (4) 「外部アンケート対応検討TFのプロセスフローの一部修正」については、修正案が承認された。
- (5) 「メール審議結果」については、9/7～9に実施したメール審議の結果報告があった。①「地域医療連携用ID（仮称）等の活用に関する調査研究の検討委員会・作業班への参画」（戦略企画部）、（結果）構成員総数42名中、出席者41名。出席者全員の賛成で承認済。

### 平成28年度 第7回運営会議議事録

<日時>：平成28年10月20日（木）15:00～18:00

<場所>：JAHIS第1～第3会議室

#### (1) 対外活動申請

- ① 「MEDIS-DC看護実践用語標準マスター普及推進作業班メンバ追加派遣」については、代理出席者として木戸病棟業務支援システム専門委員会委員を派遣することが承認された。
  - ② 「第36回医療情報学連合大会『民間病院を中心とした医療情報連携フォーラム 平成28年度MIRF公開討論会』コメンテーター依頼」については、11月23日（水）13:30～14:30、パシフィコ横浜 会議センター 三菱電機ホスピタリティルームにおいて、リハビリテーションWG活動報告及びパネルディスカッションに光城医療介護連携WGリーダーが、コメンテーターとして参加することが承認された。
  - ③ 「厚労省推進『居宅サービス事業所における業務効率化促進モデル事業』の調査検討委員会への参加依頼」については、金本福祉システム委員会委員長と畠山介護システム委員会委員長を派遣することが承認された。
- (2) 「JAHIS規則102号（標準化推進部会規則）の改定」については、第3条（構成）から「特命部長」を削除する改定案が承認された。
  - (3) 「日本臨床検査標準協議会『ISO/TC212 第22回総会及びWG会議開催（11/7～10：神戸）への協賛金提供』の依頼」については、協賛金（1口：1万円）を支出することが承認された。
  - (4) 「検査システム委員会 放射線治療WGの新規特別委員の委嘱願い」については、「JAHIS 放射線治療データ交換規約 Ver.1.1C」改定作業の終了迄の条件で、放射線治療WG主力メンバの鈴木一洋氏（（公財）がん研究会明病院・元横河医療ソリューションズ(株)）の委嘱が承認された。
  - (5) 「メール審議結果」については、10/13～17に実施したメール審議の結果報告があった。  
「代理機関（仮称）のセキュリティ等に関する検討サブワーキンググループへの参加」（医療システム部会）、（結果）構成員総数42名中、出席者42名。出席者全員の賛成で承認済。

### 平成28年度 第8回運営会議議事録

<日時>：平成28年11月15日（火）15:00～18:00

<場所>：JAHIS第1～第3会議室

#### （1）対外活動申請

- ①「第65回日本輸血・細胞治療学会総会におけるワークショップへの演者派遣依頼」については、6月23日（金）13時30分～15時、幕張メッセ 国際会議場 第4会場において、ワークショップ「院内情報管理システム」に、高山電子カルテ委員会委員を演者として派遣することが承認された
- ②「平成28年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議 での講演依頼」については、1月26日（木）9時～10時30分、琵琶湖ホテル3階瑠璃central（A会場）において、セッション「病院情報システム」において、「地域医療連携の標準化に向けて」と題し、森田地域医療システム委員会委員長が講演することが承認された。
- ③「介護のシゴト 魅力向上懇談会への参加依頼」については、平成28年11月～平成29年3月の期間において、金本福祉システム委員会委員長と畠山介護システム委員会委員長を派遣することが承認された。

- （2）「IT整備計画の実施」については、会員向けサイト、ファイル共有システム、教育事業システム、電子投票（審議）システムの新規開発、保健者番号辞書提供システム、会議システムWeb-EXの開発作業を発注することが承認された。

### 平成28年度 第9回運営会議議事録

<日時>：平成28年12月20日（火）15:00～18:00

<場所>：JAHIS第1～第3会議室

#### （1）対外活動申請

- ①「(株)じほう『地域医療情報ネットワーク相互の接続を含めたネットワークシステムの標準化について』の取材依頼」については、事業企画推進室の吉村室長、地域医療システム委員会の森田委員長、濱島副委員長の3名で対応することが承認された。
- （2）「GHS運営体制の見直し」については、①JEITA担当の本部事務局業務の一部をJEITA管理下で(株)サートプロにアウトソーシングする。②同社と教育プロモーションを推進する。③代表理事を3団体間で2年交替の輪番制に移行する。との方針が承認された。但し、JEITA、JIRA、JAHISが業務分担している各委員会運営は現行体制で推進するものとする。
- （3）「JAHIS規則5号 運営会議規則の改定」については、運営会議でのメール審議及び電子投票システム等の規定を盛り込むため、その内容を新たに第9条の4項に追加することが承認された。
- （4）「検査システム委員会副委員長の承認依頼」については、川田副委員長（アイテック阪急阪神株）の辞任に伴い、後任にD会員（アイテック阪急阪神株）の千葉氏を副委員長とすることが承認された。
- （5）「事業推進部副部長交代の件」については、木南副部長（コニカミノルタ株）の辞任に伴い、後任に鈴木氏（コニカミノルタ株）を副部長とすることが承認された。

## 平成28年度 第10回運営会議議事録

<日時>：平成29年1月17日（火）15:00～18:00

<場所>：JAHIS第1～第3会議室

## (1) 対外活動申請

- ①「HELICS協議会『RFD』に関する審査委員会への委員派遣」については、八木標準化推進部会運営幹事を派遣することが承認された。
  - ②「HELICS協議会『BOM』に関する審査委員会への委員派遣」については、井川電子カルテ委員会委員を派遣することが承認された。
  - ③「電子お薬手帳協議会への委員派遣」については、竹中調剤システム委員会委員長と守屋調剤標準化分科会リーダーを派遣することが承認された。
  - ④「月間新医療 電子版お薬手帳に関する寄稿依頼」については月刊新医療2017年3月号特集テーマ「電子お薬手帳」を題材に、竹中調剤システム委員会委員長が執筆、寄稿することが承認された。
- (2)「事業企画推進室副室長の雇用継続」については、野々村副室長と黒野副室長の雇用契約の継続(2017/4/1～2018/3/31)が承認された。
  - (3)「総務会事務局部長の雇用契約延長」については、大滝事務局部長の雇用契約の継続(2017/4/1～2018/3/31)が承認された。
  - (4)「経産省中小企業庁からJAHIS会員企業への『下請等中小企業の取引条件の改善に向けて』の周知要請依頼」については、近日中にJAHIS会員窓口宛てに発信すること、また、今後、関係省庁からJAHIS会員企業への周知要請依頼は、運営会議での承認を不要とし、事務局長と戦略企画部長が相談の上、会員窓口メール、全員メール、ホームページ掲載等の判断を行うことが承認された。
  - (5)「鈴鹿医療科学大学大学院のご紹介」については、先方からの正式依頼文書の入手を前提とし、事務局長と戦略企画部長がコンプライアンス的に問題ないか等の確認後、鈴鹿医療科学大学大学院(名古屋)の開設案内をJAHIS会員窓口で紹介することが承認された。
  - (6)「JAHIS事務所賃貸借契約」については、2017年7月31日の契約満了に伴う、森トラスト(株)との交渉結果を受け、2017年8月1日～2019年7月31日(2年間)の賃料は現行比10%アップ、2019年8月1日～2023年7月31日(4年間)の賃料は同21%アップで計6年間の賃貸借契約を締結することが承認された。敷金差額は2017年7月31日と2019年7月31日に支払う。
  - (7)「新規特別委員委嘱願い」については、平井正明氏を日本光電工業(株)からの業務委託範囲を外れる部分(国内標準化委員会の国内開催分及び、国際標準化委員会関連の海外開催分)をJAHISで負担し、特別委員として委嘱することが承認された。
  - (8)メール審議結果については、1/5～10に実施したメール審議の結果報告があった。
    - ①対外活動「介護分野における生産性向上に関する調査研究事業への委員派遣」(保健福祉システム部会)、(結果)構成員43名中、出席者43名。全員の賛成で承認済。

## 総務会

報告事項は割愛させていただき、主な審議事項・協議事項の要旨を以下に紹介します。

### 平成28年度 第5回総務会

【日時】 平成28年8月23日（火）15：00～16：25

【場所】 JAHIS 第5会議室

【審議事項】

今回は審議事項なし。

### 平成28年度 第6回総務会

【日時】 平成28年9月14日（水）15：00～16：45

【場所】 JAHIS 第5会議室

【審議事項】

今回は審議事項なし。

【協議事項】

1) IT整備計画について

セキュリティ強化と接続安定性向上のために、JAHIS事務所内の無線LANの設定変更を行う事について相談があり、実施を了承された。また、事務所内LANスイッチの故障時対応の強化のために交換し、現行機器を予備機として運用する事について提案があり了承された。

2) 標準化推進部会規則（JAHIS規則102号）の改定について

標準化推進部会が提示したJAHIS規則102号の改訂原案について協議し、この改訂原案を戦略企画部会議に提案して協議する事とした。

### 平成28年度 第7回総務会

【日時】 平成28年10月14日（金）15：00～16：00

【場所】 JAHIS 第5会議室

【審議事項】

今回は審議事項なし。

【協議事項】

1) 標準化推進部会規則（JAHIS規則102号）の改定について

10月の戦略企画部会議に提案して協議・了承されたJAHIS規則102号の改訂原案について、再度協議し、次回の運営会議に提案し審議する事とした。

### 平成28年度 第8回総務会

【日時】 平成28年11月9日（水）14：00～15：40

【場所】 JAHIS 第2会議室

【審議事項】

1) 競争法コンプライアンス自己監査について

総務会に関して起票された「JAHIS競争法コンプライアンス自己監査表」および「JAHIS競争法コンプライアンス自己監査総括表」について説明がなされた。監査表に会合日付を記入し、総括表の自己評価結果の表現を改めて、コンプライアンス委員会に提出する事を承認した。

【協議事項】

1) 運営会議のメール審議および電子投票に係るJAHIS規則改訂について

JAHIS規則5号「運営会議規則」の修正案について協議し、提示された2案の折衷案を作成して次回の戦略企画部会議で背景説明・提案を行なう事とした。

**平成28年度 第9回総務会**

【日時】 平成28年12月13日（火）16：00～17：40

【場所】 JAHIS 第5会議室

【審議事項】

今回は審議事項なし

【協議事項】

1) JAHIS規則5号「運営会議規則」の改定について

総務会で協議し提案したJAHIS規則5号「運営会議規則」の改定案が、戦略企画部会議で修正されたことが報告された。総務会より次回の運営会議に提示し、協議する事とした。

2) 総務会平成29年度の事業計画・予算計画について

総務会の平成29年度事業計画案について説明があり、一部に文言修正を加える事とした。事務局長が作成する事務局の平成29年度事業計画案と統合して、12月26日までに運営部へ提出する事とした。

総務会の平成29年度予算計画案について説明がなされ、若干の調整の必要性が指摘された。それを反映した上で、事務局長が作成する事務局の平成29年度予算計画案と統合して、運営部へ提出する事とした。

**平成28年度 第10回総務会**

【日時】 平成29年1月20日（金）15：00～16：30

【場所】 JAHIS 第5会議室

【審議事項】

1) 公務員等対応規定案について

コンプライアンス委員会から提示された原案を審議し、一部の表現を修正して制定する事を承認した。JAHIS規程5026号として平成29年1月20日付けで制定とする。

2) 総務会平成28年度の活動成果について

総務会の平成28年度の活動成果（見込み）案について説明があり、いくつかの文言調整を行う事とした。現時点での平成28年度の活動成果（見込み）として、1月末までに運営部へ提出す

る事とした。

3) 定例理事会向けの規則5号改定資料について

2月21日に開催する定例理事会で審議する規則5号改定案の資料について説明があり、一部の表現を修正して理事会資料とする事を承認した。小林運営幹事から運営部へ提出する事とした。

4) JAHIS 規程5001号「会計処理細則」改訂の件

ISO関連書籍の購入がネット決済のみで可能なため、コーポレートカードによる支払いを可能とするよう会計処理細則の改定が提案された。一緒に提示された運用要件にいくつかの項目を追加した上で、次回の戦略企画部会議で一回目の提案（背景説明）を行う事とした。

委員派遣ならびに協賛・後援（2016年8月～2017年1月決定）

委員派遣

1. 公益財団法人日本眼科学会および一般社団法人日本IHE協会

「眼科部門システムと病院システム間でのレポート連携標準化の検討会」

医療システム部会 相互運用性委員会 委員長 木村雅彦

医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 並川寛和

2. 厚生労働省事業

「地域医療連携用ID（仮称）等の活用に関する調査研究」検討委員会及び検討作業班

検討委員会委員 戦略企画部長 森本正幸

検討作業班委員 保健福祉システム部会 地域医療システム委員会 委員長 森田嘉昭

医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長 並川寛和

3. 厚生労働省

「労災レセプトオンライン化に向けた普及促進事業」普及促進活動検証委員会

戦略企画部長 森本正幸

医事コンピュータ部会 事務局部長 岸和彦

4. 学校法人岩崎学園 横浜医療情報専門学校

「教育課程編成委員会 外部委員」

運営幹事（事業推進部担当） 真野誠

5. 日本輸血・細胞治療学会

病院情報システムタスクフォース トレーサビリティチーム マスタ標準化作業部会

医療システム部会 電子カルテ委員会

委員長 並川寛和、委員 高山和也、委員 北村隆一、委員 天満一宏、委員 大林直樹、

委員 中根謙祐、委員 山崎博也、委員 本多正樹、委員 大野武志、委員 新垣淑仁

6. 経産省事業

「平成28年度サイバーセキュリティ経済基盤構築事業」電子署名法研究会  
医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原秀幸

7. 国民健康保険中央会

「障害者総合支援事務処理システム検討会」  
保健福祉システム部会 福祉システム委員会  
委員長 金本昭彦、委員 茶珍啓一郎、委員 林好治、委員 村上朋博、委員 鴻谷則和、  
委員 吉田壮輔、委員 山下隆二、委員 中満弘山

8. 総務省

代理機関（仮称）のセキュリティ等に関する検討サブワーキンググループ  
医療システム部会 セキュリティ委員会 委員長 茗原秀幸

9. MEDIS-DC

看護実践用語標準マスター普及推進作業班（メンバ追加）  
医療システム部会 部門システム委員会 病棟業務支援システム専門委員会  
専門委員 木戸須美子

10. 厚生労働省

「居宅サービス事業所における業務効率化促進モデル事業」調査検討委員会  
保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本昭彦  
医事コンピュータ部会 介護システム委員会 委員長 畠山仁

11. 厚生労働省

「介護のシゴト 魅力向上懇談会」  
保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本昭彦  
医事コンピュータ部会 介護システム委員会 委員長 畠山仁

12. 平成28年度老健事業

「介護分野における生産性向上に関する調査研究事業」  
保健福祉システム部会 福祉システム委員会 委員長 金本昭彦

13. HELICS協議会

「RFD」に関する審査委員会 審査委員  
標準化推進部会 運営幹事 八木春行

14. HELICS協議会

「BOM」に関する審査委員会 審査委員

医療システム部会 電子カルテ委員会 委員 井川澄人

15. 日本薬剤師会

「電子お薬手帳協議会」 委員

医事コンピュータ部会 調剤システム委員会 委員長 竹中裕三

医事コンピュータ部会 調剤システム委員会 調剤標準化分科会 リーダ 守屋和昭

**協賛・後援**

1. 一般社団法人全国公私病院連盟 第28回「国民の健康会議」 協賛

2. ISO/TC212 第22回総会及びWG会議 協賛

3. 公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会

第21回日本医業経営コンサルタント学会広島大会 後援

4. 公益社団法人日本生体医工学会 「第23回第1種ME技術実力検定試験」講習会 協賛

会員窓口宛と全員宛てメール  
2016年8月～2017年1月末

通知番号	宛先	タイトル	発行日
9	窓口	「次年度の会費ご請求について」	2017年1月31日
8	窓口	【お知らせ】 鈴鹿医療科学大学様からのご案内について	1月20日
7	窓口	中小企業庁からの要請/下請等中小企業の取引条件の改善に向けて	1月20日
5	窓口	【お知らせ】 NISC重要インフラニュースレター第181号	1月18日
88	窓口	【お知らせ】 NISC重要インフラニュースレター第180号	2016年12月28日
87	窓口	【お知らせ】 NISCからの情報提供 [T311] DNSサーバの点検について	12月21日
85	窓口	【お知らせ】 NISC重要インフラニュースレター第179号	12月14日
84	全員	(再通知) JAHIS技術文書セミナーのご案内	12月7日
83	窓口	【お知らせ】 NISCからの情報提供 [T308] 滋賀県内の病院のサーバへの不正アクセスについて	12月6日
82	全員	【お知らせ】 JEITA医療機器ソフトウェアの最新動向セミナー	11月28日
81	窓口	【お知らせ】 NISC重要インフラニュースレター第178号	11月28日
79	全員	登録済みメンバーのWeb申請機能リリースのお知らせ	11月25日
78	全員	(再通知) JAHIS技術文書セミナーのご案内	11月25日
80	窓口	【お知らせ】 NISCからの情報提供 [T299] @policeに掲載されている注意喚起について	11月16日
77	窓口	【お知らせ】 NISC重要インフラニュースレター第177号	11月10日
76	全員	JIRA主催画像医療システム産業研究会開催のお知らせ	11月10日
73	全員	(再通知) JAHIS技術文書セミナーのご案内	11月10日
75	全員	MEDIS主催HPKIセミナーのご案内	11月8日
72	窓口	【ご連絡】 インターネットに接続された制御装置についての参考情報	10月31日
71	全員	JAHIS技術文書セミナーのご案内	10月21日
70	窓口	【お知らせ】 NISC重要インフラニュースレター第176号	10月20日
69	全員	第59回HL7セミナーのご案内	10月17日
68	窓口	第36回医療情報学連合大会 運営協力支援依頼について	10月11日
67	窓口	【ご連絡】 BINDの脆弱性 (CVE-2016-2776) についての注意喚起	10月6日
66	窓口	【お知らせ】 NISC重要インフラニュースレター第175号	10月5日
65	窓口	日本病院薬剤師会様より注意喚起情報のご連絡	9月27日
64	窓口	【お知らせ】 NISC重要インフラニュースレター第174号	9月26日
63	全員	【お知らせ】 JAHIS事務所無線LAN設定変更の件	9月23日
62	窓口	日本病院薬剤師会様より注意喚起情報のご連絡	9月12日
61	窓口	【お知らせ】 NISC重要インフラニュースレター第173号	9月8日

---

**全員メール**

---

通知 番号	宛先	タイトル	発行日
60	窓口	日本病院薬剤師会様より注意喚起情報のご連絡	9月5日
59	全員	【ご連絡】「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第4.3版」に関するQ&Aについて	9月2日
58	全員	第64回IHE勉強会+コネクタソン見学会受講生募集について	8月26日
57	窓口	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第172号	8月24日
55	全員	オランダにおける医療保険制度・医療ICT化状況視察団メンバ募集について	8月22日
54	窓口	【お知らせ】NISC重要インフラニュースレター第171号	8月5日
53	窓口	【お知らせ】NISCへの情報連絡に関する「情報連絡事例集」の提供について	8月5日
52	全員	オランダにおける医療保険制度・医療ICT化状況視察団メンバ募集について	8月2日

## 会員紹介

会誌第59号（平成28年10月発行）での会員紹介以降に、本年3月末日までに8社の新しい会員をお迎えしました。入会された会社の業務概要やJAHISへの参加目的、活動する上でJAHISに望むことなどについて自己紹介をしていただきます。このコーナーへ寄稿をいただいた会員の原稿を入会順に掲載しています。

### 紹介項目

- ◆ 会社名
- ◆ 郵便番号、所在地
- ◆ 電話番号
- ◆ ホームページURL
- ◆ 会員連絡窓口の所属、役職、氏名
- ◆ 会社紹介

### 帝人ファーマ株式会社

〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号 霞が関コモンゲート西館

TEL : 03-3506-4796

URL : <http://www.teijin-pharma.co.jp/>

在宅医療ICT推進部 担当課長 足立 亮

帝人ファーマは、高機能繊維・複合材料、電子材料・化成品、繊維製品、IT等を提供する帝人グループのヘルスケア事業を担う中核会社として、「骨・関節」「呼吸器」「代謝・循環器」の3領域の疾患にフォーカスし、医療用医薬品と在宅医療機器を両輪とした事業をグローバルに展開しています。医薬品では、約40年ぶりの新薬として自社開発した高尿酸血症・痛風治療薬は、多くの患者様にご利用頂いており、在宅医療機器では、当社は、在宅酸素療法（HOT）を国内で最初に事業化したパイオニアであり、患者様を24時間365日サポートできるサービス体制と業界最大の顧客基盤を強みとしています。そのような事業環境を背景に、2015年9月に新規ビジネスである地域包括ケア関連事業に参入し、多職種連携情報共有システムの「バイタルリンク」の販売を開始することになりました。医療系システムについては、何分にもまだまだ若輩者でございますので、貴会ならびに会員の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

### 株式会社イムコア

〒105-0021 東京都港区東新橋2-4-6 パラッツォシエナ5F

TEL : 03-5777-4524

URL : <http://www.immucor.com/ja-jp/>

技術サポート部 篠原和也

.....

1982年に創立されたイムコアは輸血検査および移植・細胞治療検査のグローバルリーダーです。

輸血検査領域では、イムコアは様々なポリクローナル／モノクローナル抗体試薬、問題解決用試薬、キャプチャー・テクノロジー（あらかじめ固相化された赤血球膜抗原による不規則抗体スクリーニング／同定試験）、そして免疫血液学検査の自動化に対して拡張性のあるソリューションを提供しています。

移植・細胞治療検査領域では、イムコアのLIFECODES製品群は、ドナーと患者さんの組織適合性検査におけるHLA検査のマーケットリーダーです。更に、イムコアの分子生物学的アッセイや専門的なアッセイは、輸血・移植細胞領域における適合性検査、血栓止血検査においても先端的なテクノロジーとして広く使用されています。

貴会ならびに会員の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

### トレンドマイクロ株式会社

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-1-1 新宿マインズタワー

TEL : 03-5334-3601

URL : <http://www.trendmicro.co.jp/>

業種営業推進グループ 医療担当マネージャー 松山征嗣

.....

トレンドマイクロは東京に本社を置きグローバルにセキュリティ対策ソリューションを展開しています。年々サイバー攻撃が増加し、ますます巧妙化する中であらゆる組織がその対応に迫られていますが、中でも政府から重要インフラと指定されている業種13分野における情報セキュリティ強化は重要な課題となっており、医療もそのうちのひとつとして含まれています。個々の医療機関における情報セキュリティ対策強化もさることながら、地域医療連携ネットワーク、マイナンバーや医療用IDなどの医療における展開、医療ビッグデータ化など、医療情報の利活用は医療の質の向上や資源の有効活用など様々な期待が寄せられている一方セキュリティの面での心配する声が多い状況で、我々トレンドマイクロが果たす役割は大きいものと考えております。現在、また、これからの医療分野でのセキュリティ強化においてJAHISおよび会員各社の皆様方との連携、協力をいただきながら貢献していければと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 株式会社インターネットイニシアティブ

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム

TEL : 03-5205-6500

URL : <http://www.ij.ad.jp/>

---

経営企画本部ヘルスケア事業推進部 部長 喜多剛志

株式会社インターネットイニシアティブ（IIJ）は、1992年、日本で初めての国内インターネット接続事業者として創業し、日本のインターネットのパイオニアとしてイニシアティブをとり続けてきました。

ヘルスケア分野のICT要件は、ネットワークの利便性を最大限に高めながらも、セキュリティや継続性の面では、社会インフラとしての最高レベルの配慮が必要とされます。一方、コンピューティングリソースは、クラウド型のスケーラビリティや安定した運用管理が求められます。さらに、ヒトだけではなくモノもつながり始めたIoT時代となり、安全で安価なモバイル技術も求められています。これらのニーズはまさにIIJが長年培い評価されている中核技術です。

IIJは、「セキュリティ×クラウド×モビリティ」の国内有数の実績と技術力でヘルスケア分野へ貢献してまいります。貴会ならびに会員の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 株式会社トゥモロー・ネット

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2丁目8-16 平田ビル 3F

TEL：03-3518-8931

URL：http://www.tomorrow-net.co.jp/

医療ソリューション事業部 事業部長 高月常光

弊社は、2005年2月に医療情報システムのサポート業務を端緒に事業をスタートし、システム・インテグレータとして、ITソリューションの提供を生業として歩んで参りました。創業以来、社名にも表しているように、ITを通じて社会の明日に貢献することを使命としてビジネスの拡がりを実現しています。常にお客様の立場に立ち、日本でもっとも信頼されるIT企業となることを行動指針として、当社の存在感をさらに強固なものにしていきます。

現在は、SDMという統一されたデータ表現および情報の意味関係を構造化したデータモデルを利用するDWHの推進に力を入れており、このDWHなどの医療情報システムを通じて今後の医療の発展に貢献したいと考えています。

貴会ならびに会員の皆様方には、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 株式会社沖データ

〒108-8551 東京都港区芝浦4-11-22

TEL：03-5445-6111

URL：http://www.oki.com/jp/printing

商品事業本部 インダストリープリント事業部 商品第一部 開 琢也

.....

弊社OKIデータは、プリンター・複合機のメーカーとして1994年にOKIから分社した会社です。100以上の国と地域で事業を展開しています。弊社の電子写真プリンターでは、デジタルLEDヘッドを使った方式（LED方式）を採用しております。このLED方式は、それと相対するレーザー方式と比較して、回転体などが無く、構造がシンプルなため、装置を小型にでき、信頼性が高いというメリットがあります。近年では、電子カルテの普及に伴い、弊社製品を医療の現場に導入いただく機会が増えてまいりました。また、弊社の製品に、DICOM準拠のカラーLEDプリンターがあります。その特徴として、DICOMプリンターサーバー機能を内蔵するので、外部にDICOMプリンターサーバーの設置が不要になるだけでなく、医用画像に適した印刷ができます。今後も、このような製品やソリューションを提供することで、医療に貢献してまいります。

貴会ならびに会員の皆様方には、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 株式会社エフワン

〒500-8844 岐阜県岐阜市吉野町3丁目8番地

TEL：058-266-9069

URL：<http://www.f1-net.co.jp/keamane/>

ITソリューション事業部 営業1課 ヘルスケアグループ 大村 司

.....

弊社は昭和57年に富士通(株)のソリューションディーラーとしてスタートし、信頼されるITビジネスパートナーとして、ソフトウェアからネットワークまでの幅広いサービスメニューの中から最適にコーディネートし、お客様の多様なご要望に応えたソリューションを提供しています。

近年においては介護・福祉・医療・教育・自治体向けパッケージソフトウェアを自社開発し、全国に向け販売しております。

保険医療福祉情報分野では、平成12年の介護保険施行と同時に『介護支援ソフト ケアマネっ子』をリリースし16年に渡りご提供してまいりました。

また、富士通(株)の『居宅介護システム 介護の森』も東海地区で販売、サポートしております。

弊社にしかできない商品やサービスを提供することでお客様に役に立つソリューションを継続的に提供することを通じて活力とゆとりある社会の実現に貢献していきたく思っております。

貴会ならびに会員の皆様方には、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

## 新任のご挨拶

事務局 部長  
(日本電気(株))

**吉野 裕夫** Yoshino Yasuo



昨年10月に前任の千葉業務部長から引き継ぎをいたしました吉野です。これまでJAHISとの御縁は多くありませんでしたが、関係者の方々には温かく迎えていただき大変感謝しております。事業推進部の皆様や事務局の皆様、関係部会、委員会などの方々のサポートをいただいて慌ただしく活動する中で早くも半年になりました。まだまだ力不足ではありますが、微力を尽くしてまいりますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

小職は、NECに入社以降、医療機関への情報システム拡販に携わり、その後様々な業種システム営業やシステム商材の企画・拡販支援業務に携わってまいりました。数年前から再び医療事業部門の製品企画に従事した後、昨年10月よりJAHISに勤務させていただけることとなりました。入社当初は医事コン、オーダエントリシステムの営業からスタートしましたが、電子カルテ普及時代を経て、今後はネットワーク連携の強化や、ビッグデータ活用による価値創造や業務品質向上に資する活動に携われるのは大きな喜びです。

今後は、JAHIS会員様の満足度向上、啓発強化などにつながるよう、活動内容の向上に貢献してまいりたいと考えております。具体的には、来年度のJAHIS教育コースは、勉強会のカテゴリを新たに増やし、AIを含む先端技術などの新しいテーマを教育事業委員会で検討中です。セミナーもセキュリティ、地域医療連携に加え、電子処方箋などを事業企画委員会で検討しております。JAHIS教育コース・セミナーは講義もテキストも各部会・委員会、会員企業の関係者皆様が協力してご対応いただいている力作揃いです。ぜひこのような教育コース・セミナーについて広く知っていただき、受講者が増えるよう貢献してまいりたいと考えております。

本年7月12日から14日で開催されます国際モダンホスピタルショーでは、出展会員の増加、JAHISの訴求強化などについてホスピタルショー委員会、検討メンバーの方々と努めてまいります。活動に際しては、日本経営協会様との良好な関係を継続し、日本医師会様との関係強化の取り組みにも貢献してまいりたいと考えております。昨年はJAHISブースの支援をいただきましたが、JAHISの標準化への取り組みについて関心を持ってくださる皆様のご意見や反応に接することができて、このような活動を広めていくことの重要性について認識を新たにいたしました。

日薬展示では昨年は愛知県開催で約10,000名の参加があり大変盛況でした。今年の東京大会は、JR有楽町駅に隣接する東京国際フォーラムでの50回記念大会でもあり、参加者数、出展社数の大幅増加も大いに期待されております。日薬展示委員会や出展者の方々とともに大会の盛り上げに貢献したいと

考えております。また、翌年の石川大会への準備も計画的に推進してまいります。

JAHISでは平成20年の初版以降、(株)社会保険研究所様と協力し、書籍『医療情報システム入門』を発刊しており、今回の四訂版ですでに五冊目を数えました。今回は内容的にも新しい部分も増えて、関係者の方々には大変なご尽力をいただきました。今回の書籍は必ずや多くの読者の方々にお役に立つことと信じております。今回の発刊に携わることができて大変光栄に感じております。

昨秋までの田町中心の勤務から新橋中心の勤務に変わりましたが、オリンピックが近づくにつれて近隣の景観が大きく変貌してきているのを肌で感じます。少子高齢化の進展に伴って医療サービス高度化とコスト効率化がさらに求められる中、ITの力やネットワーク化の重要性が増すことは確実であり、それを支えるネットワークを通じた相互連携や標準化などの進展に貢献するJAHISの役割はさらに高まっていくことと思います。小職も微力ながら貢献できるように頑張る所存です。引き続き、皆様方のご指導の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 編集後記

執筆者の皆様にはお忙しい中、ご投稿いただき誠にありがとうございました。

今号からWebでの公開を主としたカラー版に移行し、原則として冊子での配布を行わないこととしました。

今までのモノトーンの誌面からカラー化したため、写真などでは臨場感も出て、図表もより分かりやすくなり、理解の助けになると期待しております。

ただ、何分にもカラーでのWeb版ははじめてのことであり、試作版を関係者で評価しながら制作致しましたが、まだまだ改善点が残っていると思います。会員他読者のみなさまからのご意見を頂戴してより良いものとしていきたいと考えておりますので、お気づきの点があれば、忌憚のないご意見を賜れば幸甚でございます。

これからもより良い会誌を目指していきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

Y.K

一般社団法人  
保健医療福祉情報システム工業会 会誌 第60号

平成29年4月10日 発行

発行人：浅野 正治

編集委員会：編集人 大滝 明  
委員 岩本 和則  
委員 岸 和彦  
委員 木下 善貴  
委員 鈴木 義規  
委員 中村 斉  
委員 平井 健二  
委員 吉野 裕夫

発行：一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会  
〒105-0004 東京都港区新橋二丁目5番5号  
新橋2丁目MTビル5階  
電話 03-3506-8010  
FAX 03-3506-8070  
URL <http://www.jahis.jp>

制作：株式会社イズ・アソシエイツ

